

**障害者自立支援機器等開発促進事業**

**令和6年度  
ニーズ・シーズマッチング強化事業  
事業報告書**

**令和7年4月**

**公益財団法人テクノエイド協会**

## 実施概要

### ① 事業目的と実施概要

本事業では、ユーザー側が持つニーズと開発側が持つシーズのマッチングを目的とした「**障害者の自立支援機器に関するニーズ・シーズマッチング交流会**」を企画・開催し、障害当事者のニーズを適切に踏まえた、実用的な機器が開発されるよう、試作機等を用いて想定するユーザーと開発者が膝を交えて意見交換できる場を設けた。これにより効果的なモニター評価を行う機会等を創出した。

#### 【交流会の様子】



交流会の日程及び主なイベントは、以下のとおり。

#### ○Web開催

【開催日】：令和6年10月1日（火）～令和7年1月31日（金）

【会場】：テクノイド協会HP内「Web交流プラットフォーム」

【出展者数】：102社・団体

【開催イベント内容】：

- ・Webによる開発企業及び支援機器等の紹介動画の発信
- ・問合せフォームを使用しての意見交換の実施
- ・セミナーの常時配信の実施

#### ○大阪会場

【開催日】：令和6年11月25日（月）～27日（水）／3日間

【時間】：13:00-17:00/10:00-17:00/10:00-16:00

【会場】：OMM 2階展示Aホール

【出展者数】：58社・団体

【開催イベント内容】：

- ・開発、改良中の試作機等の展示及び体験、意見交換等
- ・会場での講演

#### ○東京会場

【開催日】：令和6年12月10日（火）～12日（木）／3日間

【時間】：13:00-17:00/10:00-17:00/10:00-16:00

【会場】：東京都立産業貿易センター浜松町館 5階展示室

【出展者数】：88社・団体

【開催イベント内容】：

- ・ 開発、改良中の試作機等の展示及び体験、意見交換等
- ・ 会場での講演

## ② 交流会の開催成果

OWeb開催（令和7年1月末現在でのカウント）

- ・ Web交流プラットフォーム（トップ画面）の総アクセス数  
12,323回（昨年度：13,950回）

### 【交流会サイト トップ画面】





交流したい内容

コース別（出展者、観覧者）には研修を通じ、本職職の「質問」「要望」「改善点」を伺いたい。「研修（準備～研修～最終達成）」には「研修とコミュニケーション」の理解が不可欠と考えられており、弊社にぜひとも考えています。また、シニア層（福祉福祉メーカー、行政など）の活躍の場からは、福祉についてだけでなく、運営など様々なアドバイスも頂きたい。

この機能について問い合わせする  
(交流を希望する)

※交流を希望するの処理方法  
当該機能において、メーカーにアクセスしたところ、意見交換や交流したことがあれば、選択をして電話やオンラインで交流してください。クリックすることにより、問い合わせフォームが開きます。

出展者個別ページ	閲覧回数
総アクセス数	3,473回
平均	34回

※102社・団体

問い合わせフォーム内容	申請回数
総数	10件

○会場開催 ※カッコ内は昨年の実績

来場者数と内訳

	来場者 (使う人・作る人)	出展者	合計
大阪	274(346)	132(174)	406(520)
東京	570(396)	271(271)	841(667)
合計	844名(742)	403名(445)	1247名(1187)

来場者の使う人、作る人の内訳

	来場者 使う人	来場者 作る人	合計
大阪	187(201)	87(145)	274(346)
東京	260(184)	310(212)	570(396)
合計	447名(385)	397名(357)	844名(742)

出展者の使う人、作る人の内訳

	出展者 使う人	出展者 作る人	合計
大阪	31(36)	101(138)	132(174)
東京	38(38)	233(233)	271(271)
合計	69名(74)	334名(371)	403名(445)

○来場者アンケート結果

・来場者アンケートの調査結果（大阪会場 N=274、東京会場 N=570）

	回答件数	回収率
大阪	49	17.9%
東京	73	12.8%
合計	122件	

・来場者の満足度について

選択肢	大阪	東京	全体
大変満足している	14 (28.6%)	36 (49.3%)	50 (41.0%)
ある程度満足	24 (49.0%)	35 (47.9%)	59 (48.4%)
どちらでもない	4 (8.2%)	1 (1.4%)	5 (4.1%)
あまり満足していない	1 (2.0%)	0 (0.0%)	1 (0.8%)
満足していない	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
無回答	6 (12.2%)	1 (1.4%)	7 (5.7%)
合計	49 (100%)	73 (100%)	122 (100%)

・来場者 来年も参加したいと思うか

選択肢	大阪	東京	全体
ぜひ参加したい	19 (38.8%)	33 (45.2%)	52 (42.6%)
参加したい	15 (30.6%)	29 (39.7%)	44 (36.1%)
どちらともいえない	9 (18.4%)	8 (11.0%)	17 (13.9%)
参加したくない	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
全く参加したくない	0 (0.0%)	1 (1.4%)	1 (0.8%)
無回答	6 (12.2%)	2 (2.7%)	8 (6.6%)
合計	49 (100%)	73 (100%)	122 (100%)

○出展者アンケート結果

・出展者アンケートの調査結果 ※会場ごとに回答を必須とした。

会場	回答件数
大阪	54
東京	84
合計	138件

・出展者 交流を行った概ねの人数

選択肢	大阪	東京	全体
20人未満	9 (16.7%)	13 (15.5%)	22 (15.9%)
20人～50人未満	31 (57.4%)	31 (36.9%)	62 (44.9%)
50人～100人未満	11 (20.4%)	30 (35.7%)	41 (29.7%)
100人以上	3 (5.6%)	10 (11.9%)	13 (9.4%)
合計	54 (100%)	84 (100%)	138 (100%)

・出展者 来年も出展したいと思うか

選択肢	大阪	東京	全体
是非出展したい	32 (59.3%)	56 (66.7%)	88 (63.8%)
出展したい	15 (27.8%)	22 (26.2%)	37 (26.6%)
どちらとも言えない	5 (9.3%)	6 (7.1%)	11 (8.0%)
出展したくない	2 (3.7%)	0 (0.0%)	2 (1.4%)
全く出展したくない	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
合計	54 (100%)	84 (100%)	138 (100%)

### ③ 地域交流会（ATAサテライト）の実施

【高知県高知市】令和6年9月12日（木） 14：00－17：30  
令和6年9月13日（金） 9：30－12：00

会 場：高知文化プラザかるぽーと

座 長：坊岡 正之 氏（特定非営利活動法人結人の紬）

副座長：浜田 利満 氏（日本ロボット・セラピー推進協会）

テーマ：「障害者支援におけるコミュニケーション・ロボットの活用と効果について考える」

計18名（ニーズ側：12名、シーズ側：4名、事務局他：2名）

【沖縄県那覇市】令和6年9月17日（火） 13：30－16：30  
令和6年9月18日（水） 9：30－12：00

会 場：沖縄青年会館

座 長：金城 知子 氏（社会福祉法人おもとと会）

テーマ：「障害者の安心・安全な移動・移乗支援機器を考える～気軽に出来るを日常に～」

計29名（ニーズ側：21名、シーズ側：5名、事務局他：3名）

【宮城県仙台市】令和6年10月12日（土） 13：30－17：00  
令和6年10月13日（日） 9：30－12：00

会 場：ハーネル仙台

座 長：木島 真央 氏（株式会社メイ・ソリューション）

副座長：望月 謙一 氏（在宅支援チームフォーレスト）

テーマ：「コミュニケーション支援機器を活用した医療的ケアが必要な方（児）への生活・学習支援について考える」

計31名（ニーズ側：25名、シーズ側：3名、事務局他：3名）

【高知開催の様子】



【那覇開催の様子】



【仙台開催の様子】



#### ④ 交流会開催中及び開催後のフォローアップの成果

##### ○相談窓口の設置

専任の担当者を配置し、常時ニーズ側及びシーズ側の問い合わせに応じて、相談に応じた。また、交流会会場に来場が可能であれば、出展企業や機器、当事者団体などを紹介した。

##### ○意見交換会、アドバイス支援の実施

本交流会の成果を着実に支援機器の開発に繋げるため、出展企業等に対し開発改良中の機器について、意見交換会やアドバイスして欲しい内容等をテクノエイド協会が個別にうかがい、想定する団体及び関連機関等へ繋いだ。

・募集件数： 5社 実施件数： 3件

#### 【マッチング一覧】

No.	案件番号	機器名称	応募者情報 (シーズ側)		意見交換、アドバイス支援先 (ニーズ側)
			企業名	障害種別	実施機関名
1	06-01	TBD 	レノボ・ジャパン合同会社	身体障害 聴覚障害	岐阜清流病院
2	06-02	寝ながらパソコン楽々モニター 	松崎技術士事務所	身体障害 その他(肢体不自由で就業を希望する方)	岐阜清流病院 横浜市リハビリテーションセンター

##### ○ニーズ・シーズの情報収集提供

ニーズとシーズのマッチングを効果的に実施するため、「福祉用具ニーズ情報収集・提供システム」を活用した。障害者、ご家族、介助者、開発企業より支援機器開発に係る情報の収集、発信を行っている。

本システムは、交流会開催のお知らせや助成金に係る助成制度の発信も行っており、厚生労働省を始めとした開発促進事業やNEDOやNICTの助成金事業募集についても投稿する場を提供した。

#### 【福祉用具ニーズ情報収集・提供システム投稿件数】

令和7年2月末	要望・課題 アイデア等	新製品 技術	お知らせ	合計
投稿件数	4件 (9件)	4件 (13件)	29件 (26件)	37件 (48件)

※ () は昨年度の実績を示す

### ○最新情報や開催結果の発信

出展企業及び機器情報については、Web交流プラットフォームを活用して、常に最新の情報発信を行った。また、会期終了後も出展者情報を閲覧、検索できるようにしている。

「動画の部屋」を活用し、Web開催や会場の講演（20件）をアーカイブ化し、ニーズ側シーズ側ともに会期終了後であっても常時視聴できるようにした。

【動画の部屋へ掲載した動画の一部】



### ○その他の成果

令和7年度の開発促進事業の応募において、交流会出展者の内、6社の応募を確認した。(昨年度は3社)

# 目次

<b>I. 事業報告</b> .....	<b>1</b>
A. 背景 .....	1
B. 目的 .....	1
C. 実施内容 .....	2
(1) 企画委員会の設置 .....	2
(2) 交流会の企画・開催 .....	3
(3) Web開催の内容 .....	4
(4) ニーズ・シーズマッチング地域交流会（ATAサテライト）の開催 .....	6
(5) 交流会開催後のフォローアップ .....	7
(6) ニーズ・シーズの情報収集・発信 .....	8
(7) 実施スケジュール .....	8
D. 実施結果 .....	10
(1) 企画委員会の開催結果 .....	10
(2) 出展者の募集から決定までのプロセス .....	11
(3) 交流会の周知 .....	15
(4) Web開催及び会場開催のイベント内容 .....	19
(5) ニーズ・シーズマッチング地域交流会（ATAサテライト）の実施結果 .....	28
(6) 交流会開催後のフォローアップの成果 .....	39
(7) ニーズとシーズの情報収集発信の結果 .....	42
(8) 開催結果及びアンケート結果 .....	44
E. 考察及び結論 .....	51
(1) 成果等について .....	51
(2) 考察、結論（今後の課題と解決策について） .....	51
<b>II. 別添資料</b> .....	<b>53</b>
A. 併催イベント講演資料 .....	54
B. 交流会関係資料 .....	54
(1) 公式パンフレット .....	54
(2) 交流会チラシ .....	54
(3) 地域交流会（ATAサテライト）チラシ .....	54
(4) 出展企業等募集要項 .....	54
(5) アンケート用紙 .....	54

# I . 事業報告

## A. 背景

障害者の自立を支援する「障害者自立支援機器（以下「支援機器）」は、ノーマライゼーションの理念に基づき、障害者の活動や参加を促す極めて重要な役割を果たすものであり、障害者のニーズを捉えた製品開発と普及の促進が求められている。

一方、障害者福祉の現場において、真に必要なとされる支援機器を開発するためには、機器開発の着想段階からユーザーや支援者の「ニーズ」と開発や研究者等の「シーズ」をマッチングすることが大切であり、決してシーズ志向型の開発とならないよう、障害者の置かれている状態は勿論のこと、現場の課題やニーズを的確に捉えた支援機器の開発に繋げる取り組みが重要である。

## B. 目的

本事業では、支援機器のユーザー側が持つニーズと開発側が持つシーズのマッチングを目的とした「ニーズ・シーズマッチング交流会（以下「本交流会）」を企画・開催し、実用的な支援機器が開発されるよう、試作機等を用いて、ニーズ側とシーズ側が膝を交えて意見交換できる場を設けるとともに、効果的なモニター評価等を行う機会を創出することとした。

【障害者自立支援機器等開発促進事業の概略図】



## C. 実施内容

### (1) 企画委員会の設置

支援機器に関する障害関係団体及び、医療・福祉専門職等から構成する、企画委員会を当協会に設置し、交流会のコーディネート機能及び体制を構築した。

企画委員会では交流会の企画及び運営に係わる審議を行い、より良い交流会等の実現に向けた検討を行うこととした。また、本委員会を構成する障害関係団体の皆様には、①支援機器に関する課題やニーズをご提供いただくこと②交流会では、ニーズ側とシーズ側の交流が活性化するよう積極的にご参加いただくこと③交流会の成果を着実に支援機器開発に繋げるため、開発企業の希望に応じて相談やアドバイス支援を行うこととし、関係する障害者等をご紹介いただくこととした。

#### 【ニーズ・シーズマッチング交流会 企画委員会 委員名簿】

(委員)

(五十音順・敬称略)

氏名	所属
逢坂 忠	社会福祉法人 日本視覚障害者団体連合
安藤 信哉	公益社団法人 全国脊髄損傷者連合会
庵 悟	社会福祉法人 全国盲ろう者協会
岸川 忠彦	一般社団法人 日本ALS協会
小磯さおり	川崎市社会福祉事業団 れいんぼう川崎
小山万里子	ポリオの会
佐藤 加奈	社会福祉法人 日本身体障害者団体連合会
園田 尚美	NPO法人 日本失語症協議会
増澤 高志	ASD（自閉スペクトラム症）生活環境研究会
松尾 清美	合同会社KT福祉環境研究所
本山 和彦	一般社団法人 全日本難聴者・中途失聴者団体連合会

(オブザーバー)

(敬称略)

氏名	所属
出戸 浩朗	経済産業省 商務・サービスグループ ヘルスケア産業課 医療・福祉機器産業室
松岡 美穂	経済産業省 商務・サービスグループ ヘルスケア産業課 医療・福祉機器産業室
輿石 美和	総務省 情報流通振興課 情報活用支援室
只野 肇	国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構 スタートアップ支援部 SBIRチーム
丸山 誠二	国立研究開発法人 情報通信研究機構 デプロイメント推進部門 情報バリアフリー推進室
和田 淳平	厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部 企画課自立支援振興室
中村 美緒	厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部 企画課自立支援振興室

米谷あづみ	厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部 企画課自立支援振興室
平山 真子	厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部 企画課自立支援振興室

## (2) 交流会の企画・開催

障害当事者のニーズをよりの確に捉えた支援機器開発の機会を創出すべく、交流会を開催した。会場は大阪と東京で行うこととし、Web開催（オンライン上での意見交換）については、令和6年10月～令和7年1月末まで昨年度同様にオンラインプラットフォームを活用して開催することとした。

会場開催では、開発企業が試作中の支援機器等を会場へ持ち込み、障害者及び介護者をはじめ、企業、研究者、開発を支援する機関等が膝を交えて意見交換等を行う場を設けることとした。また、期間中の併催イベントを各種企画した。

本交流会の対象者は以下とし、ニーズ側、シーズ側の分類とした。

- ※ニーズ側：障害者、家族、在宅・施設等の介護職員、医療・福祉の業務に従事し障害者の福祉や訓練に係わる者 等
- ※シーズ側：開発メーカー、地域の産業振興団体、新規参入を検討する企業・研究者、大学・研究機関 等

### ① 開催日程及び内容

#### ● Web開催

【開催日】令和6年10月1日（火）～令和7年1月31日（金）

【配信会場】テクノエイド協会 Web交流プラットフォーム内

【企画内容】

- ・オンラインにて出展者情報及び支援機器の紹介動画等の配信
- ・問い合わせフォームを使用した意見交換の実施
- ・開発助成金事業の紹介、各種支援機器開発に係る研究報告等の配信等

#### ● 大阪会場

【開催日】令和6年11月25日（月）～27日（水）3日間

【時間】初日13:00～17:00、10:00～17:00 ※最終日16時

【会場】OMM（2階展示Aホール）

【企画内容】

- ・オンラインにて出展者情報及び支援機器の紹介動画等の配信
- ・問い合わせフォームを使用した意見交換の実施
- ・開発中の試作機等の展示及び体験、意見交換の実施
- ・会場にて講演の実施  
(行政の取り組み、基調講演、開発動向最前線、調査事業の報告)

#### ● 東京会場

【開催日】令和6年12月10日（火）～12日（木）3日間

【時間】初日13:00～17:00、10:00～17:00 ※最終日16時

【会場】東京都立産業貿易センター浜松町館（5階展示室）

## 【企画内容】

- ・オンラインにて出展者情報及び支援機器の紹介動画等の配信
- ・問い合わせフォームを使用した意見交換の実施
- ・開発中の試作機等の展示及び体験、意見交換の実施
- ・会場にて基調講演等の実施  
(行政の取り組み、基調講演、特別講演、地域交流会の成果、調査事業の報告、開発促進事業成果報告)

【大阪会場 外観】



【展示ホール】



【東京会場 外観】



【浜松町館 展示室】



## ② 出展企業等の募集

出展要項を作成のうえ、50～70企業等を一般募集することとした。

Web開催の参加は必須とする。※Web開催のみの参加は認めないこととした。

- |        |        |
|--------|--------|
| ・Web開催 | 90企業程度 |
| ・大阪開催  | 50企業   |
| ・東京開催  | 70企業   |

## (3) Web開催の内容

本交流会専用サイト内に、「Web交流プラットフォーム」を設け、出展事業・機器を紹介する動画の視聴、問い合わせフォーム及び掲示板を利用した出展者の意見交換、講演の常時配信が視聴できる仕組みを構築した。

また、Web交流プラットフォームは、ログインは不要とし、多くの方々がアクセスしやすい仕組みとした。



#### 【交流会での動画配信】

- Web交流プラットフォーム（交流会の専用ページ）をWeb上に設け、出展者の個別ページにて、開発中の製品紹介、対象者、機器の使用方法、活用方法等の内容を盛り込んだ10分以内の動画又は、音声や動画が入ったPowerPointを任意で掲載し、ニーズとシーズの交流を推進することとした。
- 出展企業等一覧は、Web交流プラットフォーム上で各障害分野別やフリーワードでの検索を可能とした。なお、動画はサーバー容量の都合上、YouTubeのサイトへ移動して動画の閲覧ができるようにした。
- Web開催期間中には、常時配信動画を掲載し、支援機器開発の助成金事業の紹介や、厚生労働科研費等の研究報告の視聴を可能とした。
- 各会場で行われた講演はオンラインにてリアルタイムで配信することとした。
- セミナー等の資料については、講演者より資料提供が可となったものについてダウンロード可とした。
- 動画の用途は、出展企業 約80本、障害当事者団体・開発支援機関 約10本

#### （4）ニーズ・シーズマッチング地域交流会（ATAサテライト）の開催

##### ① 目的

東京や大阪などの会場へ容易に参加できない地域に出向き、支援機器に係わる地域の関係者が集う「ニーズ・シーズマッチング地域交流会」、通称「ATAサテライト」を開催した。ATAサテライトでは、地域の障害者と家族・介護者をはじめ、産業振興団体や開発企業等が参集し、障害者が置かれている状況等を共有化し、課題解決に向けた具体的な支援機器のイメージを協議した。実施にあたり、地域の自治体及び団体・企業等のご協力をいただくことともに、その成果は、厚生労働省が行う「令和7年度・障害者自立支援機器等開発促進事業」の応募に繋げるとともに、製品種目特定型事業の種目検討に役立てることとした。

##### ② 開催日程及び内容

開催地は、全国的に隔たりの無いよう、基本的には過去に実施した地域を除くこととしている。また、地域の実情や支援機器に係る有識者の現状を踏まえて決定した。

今年度は、高知県高知市、沖縄県那覇市、宮城県仙台市とした。（以降、それぞれ、「ATA高知」、「ATA那覇」、「ATA仙台」と記載する。）

（過去の実施地域）

- ・令和元年度 北海道岩見沢市、高知市、佐賀市
- ・令和2年度 秋田市、宇都宮市
- ・令和3年度 （未実施）
- ・令和4年度 新潟市、山口県下関市、鹿児島市
- ・令和5年度 北海道小樽市、奈良県橿原市、和歌山市、熊本市

##### ③ 開催の周知方法

各開催地のテーマについては、支援機器の範囲は、多岐にわたることから地域の関係者及び有識者等と検討して設定することとした。

交流会専用ホームページにATAサテライトの開催案内（チラシ）を掲載し、開催地の座長をはじめとした関係者へ開催案内をもとに周知や周知依頼を行った。

## 【開催案内チラシ】



### ④ 具体的な実施方法

支援機器の有識者等からなる座長を設置し、基本的に進行は座長が行うこととした。副座長は開催までの準備や当日の座長の進行をフォローする目的として設置を可とした。協会職員は、有識者等から協力を得ながら、ニーズとシーズの間に立って進行をフォローしていく立場で参加した。また、会期中はイラストレーターもオンラインで参加し、議論の活性化及び機器のイメージが参加者で共有できるよう、イラストレーターが作成するイラストを投影し議論を進めた。

参加者は、開催地のニーズ側・シーズ側を対象とするものの、必ずしも限定しないこととした。実施は原則対面での実施とした。

#### 【進行内容】

- 1、開催にあたって（テクノエイド協会）
- 2、参加者の自己紹介
- 3、障害者や支援者のお困り事、実現したいことなど（障害者・支援者）
- 4、機器開発の現状（開発者・研究者）
- 5、課題解決に向けた機器やシステム
- 6、こんなものがあったら良い等、具体的なイメージ（案）の検討

開催日程に関しては、2日に分けて実施した。

また、参加者には終了後にアンケートに回答していただくこととした。

### ⑤ 成果物の作成及び普及について

各会場で議論された支援機器のイメージは東京会場にて成果発表の場を設け、当協会HPにて資料の掲載、「動画の部屋」にて成果発表の後援の様子を動画にてアーカイブ化し、事業終了後も取り組みの普及を促進させることとした。

### (5) 交流会開催後のフォローアップ

担当職員による相談窓口を設置し、交流会開催後の成果を支援機器の開発に繋げるため、企画委員や関係団体等と協力しながら、開発企業等に対して継続的に必要な支援を行った。

具体的には、以下の取組みを実施した。

#### (相談窓口の設置)

専任の担当者を配置し、常時ニーズ側及びシーズ側の問い合わせに応じて、相談に応じた。また、交流会会場に来場が可能であれば、会場にて関係する機器の紹介や当事者団体などを紹介する。

#### (モニター評価実施にあたっての支援・協力)

開発企業の要望に応じ、関係団体等と連携を図り、モニター評価の実施施設や想定するユーザーを紹介する。

具体的には、支援団体、施設・事業所、病院、リハセンター、支援機器の評価を行う機関等といった、障害福祉の現場（ニーズ側）を対象に「モニター評価機関等」の募集を行い、シーズ側とのマッチングを行う。担当職員がニーズとシーズの間に入り、開発中の支援機器の対象者や特徴や特性をお伺いし、マッチングが円滑に進むよう支援・協力を行う。

#### (意見交換会やアドバイス支援の実施)

交流会の成果を着実に支援機器の開発に繋げるため、開発企業の希望に応じて、相談やアドバイス等の開発支援を行うこととした。

具体的には、出展企業等から要望を個別に伺い、関係する障害者等との意見交換会やアドバイス支援等の機会を設けた。訪問及び状況に応じてオンライン会議を可とし、意見交換会等への参加については、地域を限定しないこととした。

成果については、協会HPから各方面へ発信し、ニーズとシーズのマッチングを推進するとともに、来年度以降の開発促進事業の応募を喚起することとした。

#### (動画の部屋の開設)

動画の部屋では、交流会が終了しても、期間内で実施された講演等をアーカイブ化し、期間外でも、常時視聴できる環境を設けた。

また、開発中の支援機器においても、機器の紹介、利用事例を動画として掲載し、実用的な支援機器の開発、普及に努める。（掲載にあたっては、動画の趣旨及び目的、内容等を協会において十分確認したうえで行うこととする。）

#### (その他)

その他、必要な支援を関係団体等と連携して行う。

#### (6) ニーズ・シーズの情報収集・発信

「福祉用具ニーズ情報収集・提供システム」を活用することにより、支援機器に係るニーズとシーズの収集・提供を行った。また、障害当事者団体へインタビューの動画を常時配信として当事者ニーズについて発信を行った。

#### (7) 実施スケジュール

次ページ参照。

令和6年度 ニーズ・シズマッピング強化事業 実施スケジュール(年間)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
委員会		企画委員会の設置。		★第1回企画委員会		
交流会	会場の検討・選定・ご予約。	参加者の公募・決定。 出張要領の作成・記者 出張者募集(6/1~7/5) 出張者説明会(7/17) 動画制作		出張者の選定・決定 出張者説明会(7/17) 動画制作		
ホームページ		開催イベント概要検討・内容 地域交流会ATAサイトの企画検討		正式の連携依頼 地域交流会ATAサイトの開催周知、広報		Web開催オンラインイベント
交流会フォーロ アップ		交流会専用HPの設置、PR			ユーザー側のニーズやシズの情報収集・発信	
委員会				令和6年1月	2月	3月
交流会		相談窓口の設置、講習者自立支援情報システムの利用、ニーズ情報収集・連携システムの活用(年度末まで)				★第2回企画委員会
交流会		公式LINEアカウント作成及び配布	Web開催 10/1~1/31 Web交流プラットフォームを活用したオンライン交流			
交流会			ニーズ・シズマッピング交流会の開催 大会会場 11/25-27 東京会場 12/10-12			
交流会フォーロ アップ		交流会の成果を事業に支援体制の構築に繋げるため、関係企業への発信に応じて、相談やアドバイス等の関係支援を行う 重要交換・アドバイス支援の推進(オンライン又は対面)				
その他						事業報告の作成

## D. 実施結果

### (1) 企画委員会の開催結果

「ニーズ・シーズマッチング交流会」の企画及び運営に係わる審議を行い、より良い交流会等の実現に向けた検討を行った。ニーズ側とシーズ側の交流が活性化するよう積極的に交流に関与するとともに、多くの当事者の方々が交流会に参加いただけるよう呼びかけをお願いした。

#### ① 第1回ニーズ・シーズマッチング交流会 企画委員会

【日時】：令和6年8月2日（金）14：00～15：30

【場所】：オンライン開催（テクノエイド協会・会議室）

【実施内容】：

（実施計画）

- （1）本事業の概要について
- （2）出展者の募集及び選定状況について
- （3）会場レイアウト（予定）について
- （4）併催セミナーのプログラム（案）
- （5）Web交流プラットフォームの構築・運用

（交流の活性化方策）

- （6）地域交流会（ATAサテライト）の開催について
- （7）モニター評価機関等の募集について【新規】
- （8）意見交換、アドバイス支援の実施について
- （9）ホームページの改訂及び動画の部屋について
- （10）プレスリリースサイト及びSNSの活用【新規】
- （11）今後のスケジュール

#### ② 第2回ニーズ・シーズマッチング交流会 企画委員会

【日時】：令和7年3月10日（月）14：00～15：40

【場所】：オンライン開催（TKP飯田橋ビジネスセンター）

【実施内容】：

（報告事項）

- （1）本事業の実施について
- （2）実施結果の報告について
  - ・出展者の選定及び開催の周知
  - ・交流会の企画及び併催イベントについて
  - ・地域交流会（ATAサテライト）の実施結果
  - ・意見交換、アドバイス支援の実施結果
  - ・開催結果及びアンケート結果

（検討事項）

- （3）マッチング交流会を終えて（意見交換）

## (2) 出展者の募集から決定までのプロセス

### ① 企業等の募集について

募集は「出展要項」を作成のうえ、郵送又はホームページへの掲載を行い、周知を行った。

### ② 企業等の募集

Google Formを使用したWeb上での申し込み方法とした。

### ③ 募集の期間

令和6年6月3日（月）～7月5日（金）16時必着

### ④ 周知の方法、周知先

- ・ 発送方法 : 郵送
- ・ 発送物 : 出展要項、交流会開催案内（開催チラシ）
- ・ 発送数 : 1,520カ所

主な送付先：

- 過去の開発促進事業応募企業
- 過去の交流会出展及び来場企業
- 福祉用具情報システム（TAIS）登録企業（抽出）
- 高等専門学校
- 都道府県中小企業支援センター
- 介護ロボット関連企業 都道府県・政令市 報道機関、地方産業組織 等

### ⑤ 出展企業の選定及び選定結果について

全88者の応募があり、全者を決定した。選考にあたっての観点は以下のとおり。

（選考にあたっての観点）

- ・ 障害者の活動や参加を支援する要素技術であるか
- ・ 交流会の目的及び要件に合致しているか、営業目的ではないか
- ・ 新規あるいは交流を踏まえて改良する意思があるか
- ・ 採択又は推薦があるか

#### a. 出展機器の障害種別（大阪会場及び東京会場）

※事務局審査において、応募内容を確認し、障害種別を変更したものを含む。

障害種別	応募・決定
身体障害（肢体不自由）	46
視覚障害（盲ろうを含む）	10
聴覚障害	12
高次脳機能障害（失語症等）	3
知的障害（身体介護が必要ないケースを含む）	3
精神障害（発達障害を含む）	6
その他	8
合計	88

b. 各会場における出展者の決定（当事者団体、開発支援団体等を除く）

会場	決定（昨年実績）
大阪会場	46（53）
東京会場	77（77）

c. 障害種別、分野、会場別の出展者数

障害種別、分野毎のゾーン	大阪会場 出展者数	東京会場 出展者数
身体障害（肢体不自由）	24	42
視覚障害（盲ろうを含む）	6	9
聴覚障害	6	11
高次脳機能障害（失語症等）	3	3
知的障害（身体介護が必要ないケースを含む）	0	3
精神障害（発達障害を含む）	4	3
その他	3	6
障害当事者団体・開発支援団体等	12	13
<b>合計</b>	<b>58企業・団体</b>	<b>90企業・団体</b>

※出展辞退は以下の2社となる。

【出展辞退】

- ・ 令和工藝合同会社 ※担当者の体調不良（東京会場）
- ・ 株式会社想隆社 ※社内事情により（東京会場）

d. 各会場における出展回数 ※障害当事者団体・開発支援団体等は除く





※辞退の2者は除く

#### ⑥ 出展者を対象とした説明会の実施

出展企業等を対象として、本事業の目的、出展要項の説明、交流会参加にあたってのお願い等、オンライン説明会を実施した。なお、原則、出展者は参加を必須とし、参加できなかった企業には本説明会を録画した動画を視聴していただくこととした。

#### ○出展企業等を対象にしたオンライン説明会

【実施日】令和6年7月17日（水）13時30分～

【内容】

（重要なお知らせ）

- （1）ニーズ・シーズマッチング強化事業の概要について
- （2）出展企業等の募集要項
- （3）出展企業等の状況及び、会場レイアウト（案）について
- （4）Web開催のイメージ
- （5）交流会参加にあたってのお願い

（報告事項）

- （6）支援機器に係る意見交換、アドバイス支援事業の実施について
- （7）地域交流会開催に伴う参加協力をお願い（高知、那覇、仙台）
- （8）挿画の部屋の開設について
- （9）交流会の周知について

（質疑応答）

⑦ 会場の展示方法

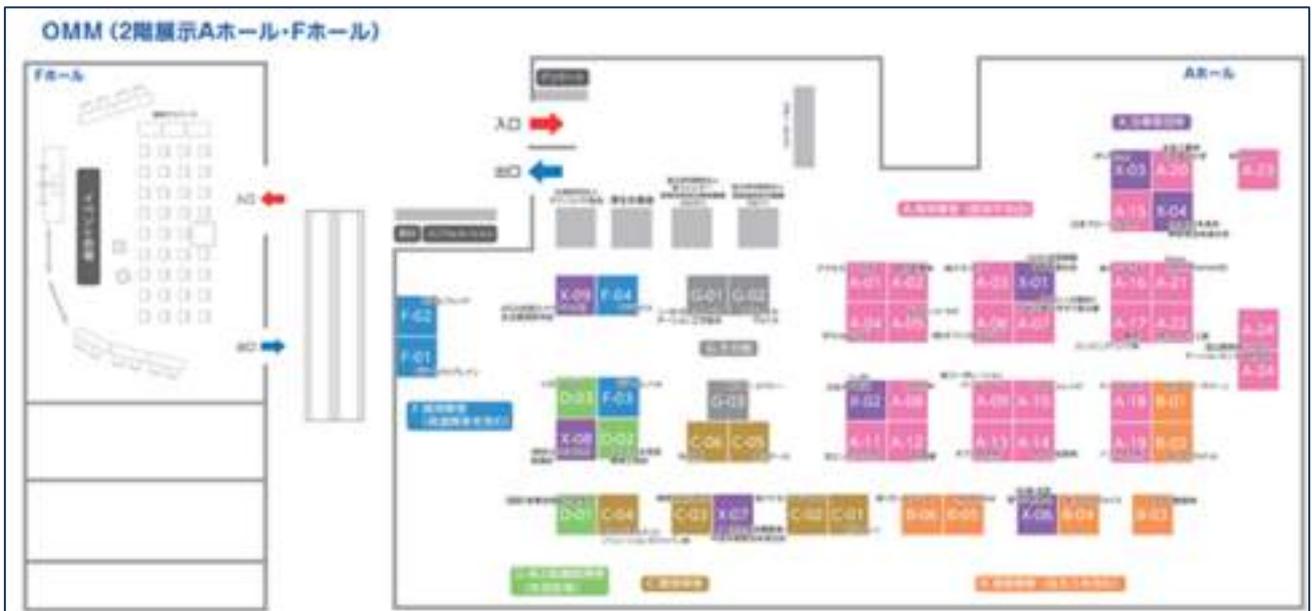
昨年度のアンケートより、大阪会場ではブース間及び通路の幅を保ち、車椅子ユーザーでも十分に移動ができるようスペースを設けることに配慮した。また、展示会場に併設していた、講演会場は別途、隣接する別会場を使用することとした。

障害の分野ごとにゾーンを分け、当事者団体や支援団体を出展者が囲むようなレイアウトにし、出展者でもニーズ側とシーズ側が交流を図りやすい環境に務めた。

【障害分野ゾーン】

- A. 身体障害（肢体不自由）、B. 視覚障害（盲ろうを含む）、C. 聴覚障害
- D. 高次脳機能障害（失語症等）、E. 知的障害、F. 精神障害（発達障害を含む）、
- G. その他、X. 当事者団体

【大阪会場レイアウト】



【東京会場レイアウト】



### (3) 交流会の周知

#### ① 交流会専用ホームページの開設

【期 間】：令和6年5月20日（月）～

【周知方法】：協会ホームページより、順次最新情報になるよう更新を行った。

テクノエイド協会にアクセスすると、上部に交流会のバナーを表示させ、バナーをクリックすると交流会専用サイトに移る仕組みとした。

【協会トップページ】



#### ② 公式パンフレット及びチラシの作成、配布

本交流会開催の周知として公式パンフレット及びチラシを作成し、過去の来場者、障害者団体、開発企業、職能団体、行政など6,237カ所に送付した。

【パンフレット】



【期 間】：令和6年11月上旬～

【周知方法】：郵送、メール等

【送付物】：公式パンフレット

【主な送付先】：

- 障害者団体、支援団体（日本障害者協議会会員、全国の障害当事者団体等）
- 開発企業（過去の採択企業、TAIS登録企業、過去の交流会出展企業等）
- 行政（都道府県、市町村の障害主管課）
- 過去の交流会一般来場者
- 職能団体（都道府県のPT協会、OT協会事務局、ST協会事務局）
- 介護実習・普及センター、ITサポートセンター
- 全国の更生相談所、リハビリテーションセンター
- 介護ロボット関連企業または施設
- 義肢製作所、
- 特別支援学校等
- 報道機関
- その他（賛助会員、個人あて）

【関係団体への周知及び周知依頼】

厚生労働省及び関係機関・団体の協力のもと、多くの団体等へ本交流会開催を周知した。主な周知先は以下のとおり。

- 東京都福祉局障害者施策推進部：管内関係者へ周知のお願いを実施
- 各都道府県 産業振興組織・機関：企業へ周知のお願いを実施
- 日本作業療法士協会：会員向けHPに掲載
- 静岡県作業療法士協会：HPへの掲載
- 神奈川県作業療法士協会：HPへの掲載
- 日本言語聴覚士協会：機関紙、HPへの掲載
- 独立行政法人福祉医療機構（WAM）：イベントセミナーHPに掲載
- 日本障害者リハビリテーション協会：会員へ周知のお願いを実施
- JASPA：会員へ周知のお願いを実施
- バリアフリー展：会員へメルマガの送信、Facebook、X（旧 Twitter）へ掲載
- 福祉新聞：開催情報を掲載

### ③ SNSやプレスリリースを使った交流会の周知【新規】

今年度より協会のSNSとしてX（エックス）を開設し、交流会に出展される機器説明や画像、開催案内、地域交流会の開催案内等を行った。また、プレスリリース配信も下記のスケジュールにて実施した。

【Xを用いた配信】

○出展者情報・出展機器の紹介

2024年8月9日～9月30日まで、1日に1社～2社として出展機器情報を投稿した。結果、投稿毎に50～800程度のインプレッション数となった。

○交流会、地域交流会の開催

2024年9月2日～11月15日までに複数回、交流会及び地域交流会の開催案内を投稿した。結果、投稿毎に86～497のインプレッション数となった。

【プレスリリースを使用した周知】

プレスリリースは大手の3社を使用して開催周知を行った。

計12回のプレスリリース、付随するX広告等を発信した。詳細は、以下を参照。

※PV数は、ウェブページ閲覧数、UU数は一定期間内のWebサイト訪問人数を指す

【プレスリリースエージェンシー3社配信実績】

No.	エージェンシー	配信日	リリース内容	記事数	PV数	UU数	その他
1	@Press	2025年1月14日	交流会20241月31日までWeb上にて開催	69	-	-	X広告リーチ数10,320
		2024年12月6日	交流会2024東京会場開催のお知らせ	62	-	-	-
		2024年11月15日	交流会2024大阪会場開催のお知らせ	66	-	-	X広告リーチ数15,304
		2024年10月1日	交流会2024Web開催開始	59	-	-	X広告リーチ数34,121
		2024年8月9日	ATA 仙台市、高知市、那覇市で開催します！	59	-	-	X広告リーチ数25,989
		2024年6月18日	交流会 大阪・東京にて11月・12月に開催	52	-	-	-
2	共同通信PRワイヤー	2025年2月1日	講演・報告会等を『動画の部屋』で視聴可能	52	52	50	Xリーチ数168
		2025年1月10日	令和7年1月31日(金)までWeb上でのオンライン交流を実施	54	44	33	-
		2024年6月17日	交流会2024出展者の募集	60	31	27	-
3	PR TIMES	2024年11月13日	交流会2024大阪会場開催のお知らせ	61	632	631	Facebookいいね数37
		2024年8月6日	交流会 大阪・東京にて11月・12月に開催	56	363	363	Facebookいいね数24
		2024年6月17日	交流会2024出展者の募集	62	447	445	Facebookいいね数19

【テクノエイド協会アカウントのX投稿】



【テクノエイド協会アカウントのX投稿 抜粋】



【配信されたプレスリリースの記事 抜粋】



■開催概要

大阪会場の事前申し込みはこちらから（事前登録をさせていただくとスムーズに受付が可能です）

【大阪会場】：令和6年11月25日（月）、26日（火）、27日（水） 出展者46社  
 時間：初日13：00～17：00/10：00～17：00（最終日のみ16:00）  
 会場：OMM（2階展示Aホール、Fホール） 最寄り駅：天満橋

【Web開催】：令和6年10月1日（火）～令和7年1月31日（金） 出展者88社  
[テクノエイド協会 Web交流プラットフォーム](#)

支援機器の展示以外にも**質疑応答、研究報告**などの講演を実施予定です。  
 また、会場にお越しいただくことが出来ない方でも、Web上で出展機器について出展者へ問い合わせることが可能です。詳しくは、[ニュースリリースマッチング交流会2024](#)サイトをご覧ください。

実用型ロボット  
 実用型機器  
 視覚障がい者専用 Android 端末  
 リアルタイム音声認識アプリ

#### （４）Web開催及び会場開催のイベント内容

##### ① Web開催

【開催期間】：令和6年10月1日（火）～令和7年1月31日（金）4カ月間

【会場】：テクノエイド協会 Web交流プラットフォーム内

【内容】：

- ・Webによる開発企業及び支援機器等の紹介動画の発信
- ・問合せフォームを使用しての意見交換の実施
- ・セミナーの常時配信の実施、会場セミナーの資料掲載

本サイトは、掲載する情報量が多いため、タブ機能を使い、目的の内容を分けることで情報が散財せず、コンパクトに視覚的にも操作性面でも使いやすいサイトとした。

出展企業等や出展機器情報の掲載、問合せフォームからの意見交換、併催セミナーの視聴、セミナー資料のダウンロードを可能にしたプラットフォームを構築した。

出展企業等や出展機器情報は、「カテゴリー」、「フリーワード」より検索を可能とし、出展企業ごとに出品者のページを作成し、「問合せフォーム」を使って意見交換ができるよう仕組みとした。本プラットフォームは、Web開催開始日の令和6年10月1日から令和7年1月31日までを公開期間とした。

【交流会サイト トップ画面】

障害者自立支援協会  
The Association for Technological Job Support

Welcome to association for technical job support page

## 障害者自立支援機器 ニーズ・シーズマッチング強化事業

ホーム > 障害者自立支援機器 ニーズ・シーズマッチング強化事業

2023年度 2022年度 2021年度

### ニーズ・シーズマッチング強化事業

障害者福祉の現場において、真に必要なとされる実用的な支援機器の開発・実用化を支援する一環として、開発の早い段階から障害者や支援者の「ニーズ（課題や要望）」と企業や研究者等の「シーズ（技術）」のマッチングを強化する事業となります。

障害者自立支援機器

## ニーズ・シーズマッチング 交流会 2024

作る人と使う人の又渡会

2024年10月1日(日)～11月31日(日)

2024年11月25日(日)～26日(月)～27日(火)

2024年12月10日(日)～11日(月)～12日(火)

事業概要	地域交流会	意見交換 アドバイス支援 ※実施終了	出張者一覧	交流会 参加登録
	講演 セミナー	動画の配信	モニター評価 依頼等の募集	過去の 出張情報
				Web交流 プラットフォーム

### お知らせトピックス

- **事業概要**
- 地域交流会
- **意見交換・アドバイス支援** **※実施終了**
- 出張者一覧
- 交流会参加登録
- 講演セミナー
- 動画の配信
- モニター評価依頼等の募集
- 過去の出張情報
- Web交流プラットフォーム

## 事業概要

### 開催目的

障害者及び障害児（以下「障害者」）の自立を支援する障害者自立支援機器（以下「支援機器」）は、障害者の活動や参加を促すものとして、極めて重要な役割を果たすものです。

障害者福祉の現場において、真に必要なとされる支援機器を開発するためには、産学の段階から障害者や支援者の「ニーズ」と、企業や研究者等の「シーズ（技術）」をマッチングすることが大切であり、シーズ志向型の開発とならないよう、障害者の置かれている状態は勿論のこと、現場の課題やニーズを的確に捉えた支援機器の開発を推進することが求められています。

本交流会では、支援機器のユーザー側が持つニーズと開発側が持つシーズのマッチングを目的とした「ニーズ・シーズマッチング交流会」を企画・開催し、実用的な支援機器が開発されるよう、試作機等を用いて、ニーズ側とシーズ側が顔を交えて意見交換できる場を設けるとともに、効果的なモニター評価等を行う機会を創出することを目的とするものです。

※ニーズ側：障害者、家族、在宅・施設等の介護職員、医療・福祉の業務に従事し障害者の福祉や訓練に係わる者 等  
 ※シーズ側：開発メーカー、地域の産業界関係団体、新規参入を検討する企業・研究者、大学・研究機関 等

## 【Web交流プラットフォーム画面】

### Web交流プラットフォーム

出展情報や企業等を探し、交流したい相手に問い合わせフォームから連絡してください。  
 出展企業のページでは、情報の概要（動画）や交流したい内容がご覧いただけます。  
 当事者団体・開発支援機関等のページでは、団体の紹介や支援情報に関するニーズなどがご覧いただけます。

閲覧数：11956

#### 出展企業等と交流

ここからは、出展企業を検索することができます。「もっと見る」をクリックすると出展者一覧を見ることが可能です。「会場」、「カテゴリー」、「フリーワード」より検索が可能です。製品名をクリックすると出展者・出展情報の詳細を見ることができます。

※出展者一覧の並び順は、ランダムに表示されます。  
 ※条件を表示する場合は、検索条件を満たしてから検索ボタンをクリックしてください。

**会場**  東京会場に出展する情報  大阪会場に出展する情報

**カテゴリー**  A.身体障害（肢体不自由）  B.視覚障害（盲ろうを含む）  
 C.聴覚障害  D.高次脳機能障害（失語症等）  
 E.知的障害（身体介助が必要なケースを含む）  F.精神障害（発達障害を含む）  
 G.その他

**フリーワード**

検索 クリア

88件の結果があります

出展者	製品名	製品概要	製品画像	カテゴリー	会場	動画	問い合わせ
アドプラス	タイムプランナー	障害のある方の中には時間の管理が難しい方もおられます。そのため、決められた時間内でどのような活動を組み込むか、またはその活動もあきらめるかを体系的に理解しやすい管理ツール「タイムプランナー（印刷）」を展示します。		視覚障害（発達障害を含む）	大阪 F-04		<span style="background-color: #e67e22; color: white; padding: 2px 5px;">問い合わせ</span>
株式会社VIA	軽便小型型式で携行可能な30cmカート（リンドル型電動車いす）。	小型型式で重量約20kg。折りたたみ式の折り畳み式でも利用も可能。両側でも利用も可能なシーンでもご利用頂けます。ハイデザインにより様々なイメージを一挙。		身体障害（肢体不自由）	大阪 A-21		<span style="background-color: #e67e22; color: white; padding: 2px 5px;">問い合わせ</span>

### 障害当事者・支援団体、開発支援機関等と交流

#### 障害当事者・支援団体

企業・団体名	交流したい内容	カテゴリー	会場	動画	問い合わせ
ポリオの会	ポリオ后遗症者は全員にわたって様々な障害を伴い、様々な分野の福祉情報を必要としている。企業に対していろいろな角度から調査し報告していくことと、他の障害の方にも役立つ情報を提供していきたい。	障害当事者・支援団体	大阪 東京	<span style="background-color: #2980b9; color: white; padding: 2px 5px;">動画</span>	<span style="background-color: #e67e22; color: white; padding: 2px 5px;">問い合わせ</span> 終了しました

#### 開発支援機関等

企業・団体名	交流したい内容	カテゴリー	会場	動画	問い合わせ
国立研究開発法人 独立行政法人 産業技術総合研究所 (AIST)	福祉用技術者を行っておられるメーカー、事業者さまにNEDOの福祉用技術支援事業（S&T事業）を案内したくと思い、現状で困難について懸念となっている事項があればお話ししたいと考えております。	開発支援機関	大阪 東京	<span style="background-color: #2980b9; color: white; padding: 2px 5px;">動画</span>	<span style="background-color: #e67e22; color: white; padding: 2px 5px;">問い合わせ</span> 終了しました
国立研究開発法人 情報通信研究機構 (NICT)	情報通信研究機構（NICT）が実施している課題パリアフリー事業助成プログラム案内です。	開発支援機関	大阪 東京	<span style="background-color: #2980b9; color: white; padding: 2px 5px;">動画</span>	<span style="background-color: #e67e22; color: white; padding: 2px 5px;">問い合わせ</span> 終了しました

## 【出展者ページ】

トヨタ自動車株式会社 | トヨタリドウシヤカブシキガイシャ

今までの閲覧数：43

【品名(同時を含む)】 盲ろう者向け指点字および点字の練習機器

### 出展者情報

大衆公開に出席  専門公開に出席  会場では実物を見ることが出来ます。



住所	〒411-0191 静岡県浜松市東区1-1-1 豊田 豊田一社 東館 8F 受付
担当部署	実行プログラムサポート室 情報部
氏名	中西 尚幹
TEL	053-5054-2000
FAX	053-5057-7314
企業HP	<a href="http://www.toyota.com/ja/">http://www.toyota.com/ja/</a>
その他	

### 出展機器情報

出展機器	盲ろう者向け指点字および点字の練習機器
型番	
障害種別	視覚障害（盲ろうを含む）
機器の概要	【対象者】指点字、点字を習得したい盲ベースの中級盲ろう者【概要】打った指点字、機器からランダムに設定される指点字と点字を手のひら書きて覚え合わせが可能。【特徴になること】超音波ポート型ケースで好きな時に好きなだけ学習が可能。習得の早期化。指が印刷により、点字ディスプレイが見えるようになり、多くの人・情報と繋がってほしい。更に、メール内容、天気予報、ニュースタイトル等を手のひら書きて伝達可能。
参考資料	パンフレット



### 交流したい内容

ニーズ別（当事者、関係者）には体験を通し、本機器の「有効性」「要望」「改善点」を伺いたい。「移動（準備～移動～目的達成）」には「情報とコミュニケーション」の確保が不可欠と考えており、質問させてほしいと考えています。また、ニーズ別（福祉機器メーカー、行政など）の先輩の方々からは、機器についてだけでなく、運用など様々なアドバイスをいただきたい。

この機器について問い合わせする  
(交流を希望する)



#### ■交流を希望するの活用方法

当該機器について、メーカーにうかがったこと、意見交換や交流したことがあれば、連絡をして電話やオンラインで交流してください。クリックすることにより、問い合わせフォームが開きます。

問合せフォーム内からは、「機器について質問したい」、「資料が欲しい」、「詳細な説明が聞きたい」、「その他」等から交流内容を選択し、出展者へ連絡することができる。

【Webセミナー視聴 画面】

自立支援機器に係る行政の取り組みや研究報告、各団体によるニーズ配信等を行った。  
また、YouTube に動画をアップロードし、PC及び携帯端末で視聴を可能とした。

プログラム	内容等	YouTube
開会挨拶	本文流会の目的、Web及び会場開催のご案内 公益財団法人 テクノエイド協会 企画部 宇田川 竜吾	
行政の取り組み	障害者自立支援機器等開発促進事業の実施について 厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部 企画課 自立支援振興室 福祉工学専門官 中村 美緒 氏	 
	高齢者・障害者の利便の増進に資するデジタル・ディバイド解消に向けた 技術等研究開発(補助金)について 総務省 情報流通振興課 情報活用支援室 課長補佐 西石 美和 氏	
	福祉用具の研究開発の推進 SBIR推進プログラムの実施について 国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO) スタートアップ支援部 SBIRチーム 只野 肇 氏	
	情報バリアフリー環境の実現を目指して 国立研究開発法人 情報通信研究機構(NICT) デプロイメント推進部門 情報バリアフリー推進室 室長 丸山 誠二 氏	
研究報告	障害者自立支援機器開発コーディネーター育成プログラムの 開発に資する研究 東京大学 大学院大学院情報理工学系研究科 知能機械情報学専攻 教授 二瓶 美里 氏	
	支援機器の開発・普及のためのモデル拠点構築に資する研究 国立障害者リハビリテーションセンター 研究所長 龜山 仁彦 氏	
	障害者自立支援機器開発・利活用に関わる医療・福祉・工学分野の 人材育成モデルの普及促進に資する研究 国立障害者リハビリテーションセンター 研究所 福祉機器開発室長 井上 斯伸 氏	
ニーズの発信	支援機器に対する期待、開発企業に対して協力可能なこと 公益社団法人 全国盲聴損傷者連合会 常務理事・事務局長 安藤 信雄 氏 ホリオの会 代表 小山 万里子 氏 特定非営利活動法人 日本失語症協議会 理事長 園田 尚美 氏 ASD(自閉スペクトラム症)生活環境研究会 代表 増澤 高志 氏	

② 大阪会場について

【開催期間】：令和6年11月25日（月）～27日（水） 3日間

【時間】：初日13：00～17：00／10：00～17：00  
（最終日のみ16：00）

【会場】：OMM（2階展示Aホール）

【出展者数】：58企業・団体

【開催イベント内容】：

- ・ 支援機器の展示・相談、デモンストレーション、意見交換の実施
- ・ 会場内にてセミナーの実施

【大阪会場セミナーのプログラム】

プログラム		内容等	
開会挨拶 (20分)	11/25 (月)	14:00～ 14:20	本文流会の目的、Web及び会場開催のご案内 公益財団法人 テクノエイド協会 企画部 宇田川 竜吾
行政の 取り組み (各20分)		14:30～ 14:50	障害者自立支援機器等開発促進事業の実施について 厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部 企画課 自立支援振興室 福祉工学専門官 中村 美緒 氏
		15:00～ 15:20	高齢者・障害者の利便の増進に資するデジタル・デバイス解消に 向けた技術等研究開発(補助金)について 総務省 情報流通振興課 情報活用支援室 課長補佐 奥石 美和 氏
		15:30～ 15:50	福祉用具の研究開発の推進 SBIR推進プログラムの実施について 国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO) スタートアップ支援部 SBIRチーム 只野 肇 氏
		16:00～ 16:20	情報バリアフリー環境の実現を目指して 国立研究開発法人 情報通信研究機構(NICT) デプロイメント推進部門 情報バリアフリー推進室 室長 丸山 誠二 氏
基調講演 (30分)	11/26 (火)	11:00～ 11:30	支援機器の観点からみる、知的障害のある人々への 合理的配慮と環境整備について 一般社団法人 スローコミュニケーション 理事長 野澤 和弘 氏
開発動向 最前線 (各20分)		14:00～ 14:20	話話トレーニングアプリの紹介 神奈川工科大学 情報学部 情報工学科 画像情報処理システム研究室 教授 宮崎 剛 氏
	14:30～ 14:50	音声認識AI環境制御装置「ビーハンド」の紹介 リフォームレシビ 代表 片岡 彰彦 氏	
調査事業 の報告 (各30分)	11/27 (水)	14:00～ 14:30	令和5年度障害者総合福祉推進事業 新たな支援機器開発領域の開拓及び活性化のための実態調査の報告 株式会社日本総合研究所 リサーチ・コンサルティング部門 マネジャー 城岡 秀彦 氏
		14:40～ 15:10	障害者等のICT機器利用支援事業の報告 株式会社エヌ・ティ・ティ・データ経営研究所 ライフ・バリュー・クリエイションユニット マネージャー 奈良 夕貴 氏

【大阪会場 交流の様子】



③ 東京会場について

- 【開催期間】：令和6年12月10日（火）～12日（木） 3日間  
【時 間】：初日13：00～17：00／10：00～17：00  
（最終日のみ16：00）  
【会 場】：東京都立産業貿易センター浜松町館（5階展示室）  
【出展者数】：88企業・団体  
【開催イベント内容】：  
・ 支援機器の展示・相談、デモンストレーション、意見交換の実施  
・ 会場内にてセミナーの実施

【東京会場セミナーのプログラム】

プログラム		内容等
開会挨拶 (20分)	12/10 (火)	14:00～ 14:20 本文流会の目的、Web及び会場開催のご案内 公益財団法人 テクノエイド協会 企画部 宇田川 竜吾
行政の 取り組み (各20分)		14:30～ 14:50 障害者自立支援機器等開発促進事業の実施について 厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部 企画課 自立支援振興室 福祉工学専門官 中村 美緒 氏
		15:00～ 15:20 高齢者・障害者の利便の増進に資するデジタル・ディバイド解消に 向けた技術等研究開発(補助金)について 総務省 情報流通振興課 情報活用支援室 課長補佐 興石 美和 氏
		15:30～ 15:50 福祉用具の研究開発の推進 SBIIR推進プログラムの実施について 国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO) スタートアップ支援部 SBIIRチーム 只野 肇 氏
		16:00～ 16:20 情報バリアフリー環境の実現を目指して 国立研究開発法人 情報通信研究機構(NICT) デプロイメント推進部門 情報バリアフリー推進室 室長 丸山 誠二 氏
基礎講演 (30分)	12/11 (水)	11:00～ 11:30 支援機器の観点からみる、知的障害のある人たちへの 合理的配慮と環境整備について 一般社団法人 スローコミュニケーション 理事 羽山 慎亮 氏
特別講演 (40分)		13:00～ 13:40 インクルーシブデザインで「誰もが使いやすい」のその先へ PLAYWORKS株式会社 代表取締役 タキザワ ケイタ 氏
地域交流会 の成果 (各20分)		14:30～ 14:50 ATAサテライト部会 成果報告 社会福祉法人 おもと会 作業療法士、福祉用具プランナー管理指導者 金城 知子 氏
	15:00～ 15:20 ATAサテライト高知 成果報告 特定非営利活動法人 結人の輪 理事長 坊岡 正之 氏	
	15:30～ 15:50 ATAサテライト仙台 成果報告 メイ・ソリューション株式会社 代表取締役 木島 真央 氏	
調査事業 の報告 (各30分)	12/12 (木)	11:00～ 11:30 令和5年度障害者総合福祉推進事業 新たな支援機器開発領域の開拓及び活性化のための実態調査の報告 株式会社日本総合研究所 リサーチ・コンサルティング部門 マネジャー 城岡 秀彦 氏
		11:40～ 12:10 障害者等のICT機器利用支援事業の報告 株式会社エヌ・ティ・ティ・データ経営研究所 ライフ・バリュークリエイションユニット マネージャー 奈良 夕貴 氏
開発促進 事業成果 報告 (各15分)		14:00～ 14:15 株式会社西川精機製作所
		14:15～ 14:30 株式会社Mu-BORG
		14:30～ 14:45 株式会社メンサボ
		14:45～ 15:00 矢崎化工株式会社
		15:00～ 15:15 株式会社Ubitone

なお、Web開催、会場開催で実施した講演等に関しては、動画にてアーカイブ化し、「動画の部屋」に集約することとする。交流会が終了しても、動画の部屋より、各種講演の視聴を可能とすることとした。

【東京会場 交流の様子】



## (5) ニーズ・シーズマッチング地域交流会（ATAサテライト）の実施結果

### ① 開催内容

開催内容は以下の通り。

	沖縄県那覇市	高知県高知市	宮城県仙台市
テーマ	障害者の安心・安全な移動・移乗支援機器を考える ～気軽に出かけるを日常に～	障害者支援におけるコミュニケーション・ロボットの活用と効果について考える	コミュニケーション支援機器を活用した医療的ケアが必要な方(児)への生活・学習支援について考える
座長	社会福祉法人おもと会 作業療法士 福祉用具プランナー管理指導者 金城 知子 氏	座長 特定非営利活動法人 結人の軸 理事長 坊岡 正之 氏 副座長 特定非営利活動法人 日本ロボット・セラピー推進協会 理事長 浜田利満 氏	座長 メイソソリューション株式会社 代表取締役 木島 真央 氏 副座長 有限会社 在宅支援チームフォーレスト 代表 理学療法士 望月 謙一 氏
日時	令和6年9月17日(火) 13:30～16:30 9月18日(水) 9:30～12:00	令和6年9月12日(木) 14:00～17:30 9月13日(金) 9:30～12:00	令和6年10月12日(土) 13:30～17:00 10月13日(日) 9:30～12:00
会場	沖縄県青年会館 棟橋の間	高知市文化プラザかるぼーと 第3学習室	ハーネル仙台 蔵王A

### ② 開催結果

#### ○ATAサテライト高知

【会場】：高知文化プラザかるぼーと

【座長】：坊岡 正之 氏（特定非営利活動法人結人の軸）

【副座長】：浜田 利満 氏（日本ロボット・セラピー推進協会）

【テーマ】：「障害者支援におけるコミュニケーション・ロボットの活用と効果について考える」

【参加者】：計18名（ニーズ側：12名、シーズ側：4名、事務局他：2名）

【参加者内訳】



【主な検討内容】：

日本ロボット・セラピー推進協会、大学教員、特別養護老人ホームの担当者より、ロボットを用いたレクリエーションの現場での効果、研究成果等について発表があった。

特別養護老人ホーム（以下、特養）では、入所者の要介護度が3～5となるため利用者同士の会話は少なく、人間同士のコミュニケーションを促すきっかけとしてロボットを導入している。また、IT教材（電子黒板やタブレット等）を使用した言語・学習療法に基づくリハビリ教材として、言語リハビリテーションとロボットを組み合わせる報告があった。ロボットには司会のセリフやさくら役をそれぞれ設け、講師に経験スキルが少なくてもロボットを活用することで人員の削減、場の盛り上げやコミュニケーションが活性化するとのことであった。

ロボットレクリエーションが、ロボットがやってくれるという視点ではなく、ロボットの中にそのようなレクリエーションのパターンを組み込むかが必要であり、ロボットと当事者の間に立つ介在者（使う側）がロボットを使用し、当事者に喜ばれるかを考えることが重要ではないかという意見が出た。近年、施設に入所している障害者も高齢化が進んでおり、今回は特養の事例であったが、障害者施設においてもロボットレクリエーションの可能性が示唆される議論になった。

【議論の経過をイラストにしながら具体的な機器のイメージを検討した（抜粋）】





### 追加内容

ロボットが語る紙芝居があっても面白いのではないかとこの話ができました



### まとめ

コミュニケーションの場の創世を目的としたシナリオ型ロボットレクリエーション

ロボットの存在により、コミュニケーションが活性化



良好な感情の表出時間が増加する可能性

ロボットが自分の話すペースに合わせてくれることで、話しやすくなる



ロボットが笑いを取るセリフを話すことで場が盛り上がる可能性

【交流の風景】



○ATAサテライト那覇

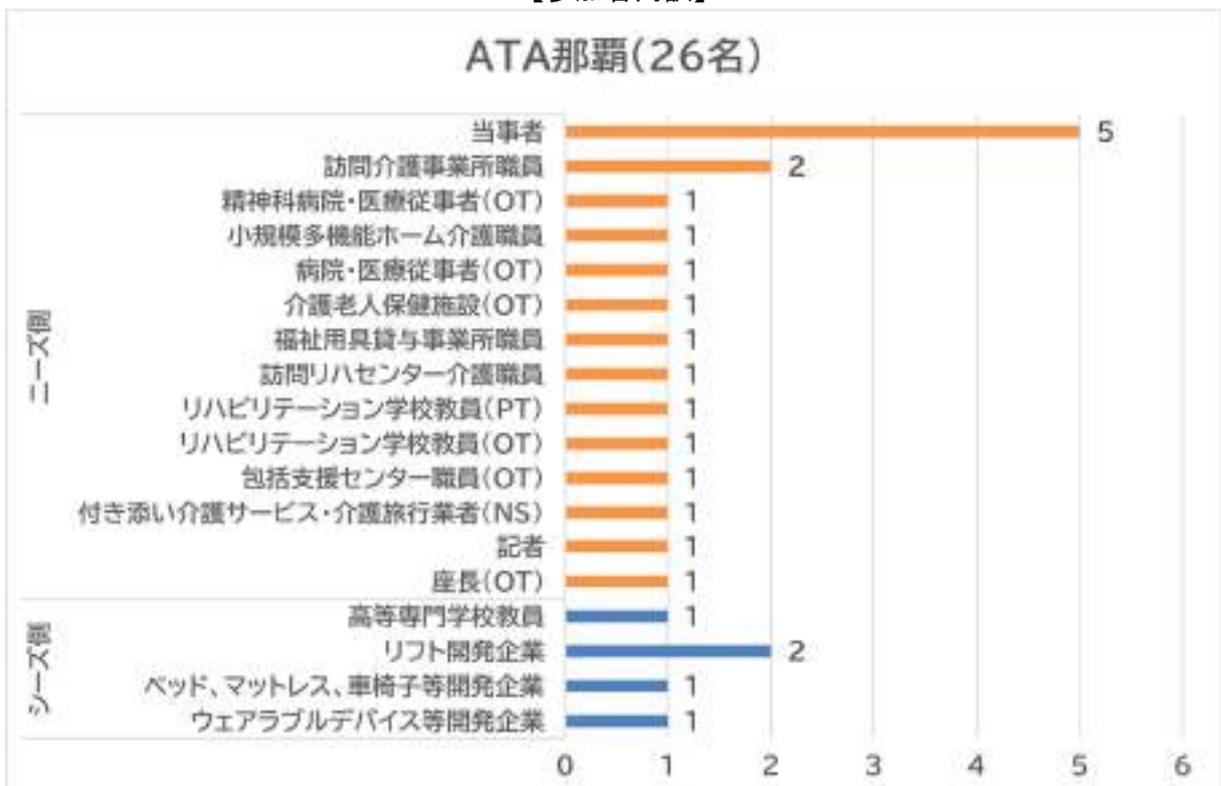
【会 場】：沖縄青年会館

【座 長】：金城 知子 氏（社会福祉法人おもと会）

【テーマ】：「障害者の安心・安全な移動・移乗支援機器を考える～気軽に外かけるを日常に～」

【参加者】：計29名（ニーズ側：21名、シーズ側：5名、事務局他：3名）

【参加者内訳】



【主な検討内容】：

障害当事者、高専教員、作業療法士、福祉用具プランナー、医療や介護関係者など、多岐にわたる立場の人々で、障害者が日常生活で抱える移動や移乗の課題に対するニーズを共有した。事前に移乗に関するアンケートを実施し、特に階段昇降、屋内移動、屋外移動が主に困りごととして挙げられ、高さや段差を超えることが課題として明らかになった。

当事者Aさんからは、一人暮らしをしているが、脳性麻痺のため自宅でのトイレ移動、入浴、車椅子への移乗はヘルパーの介助が不可欠とのことであった。リフトメーカーからは、福祉機器、リフトを使用することで自立できる部分が多くあるのではないかと意見があった。

また、当事者Bさんの話では、外出するにあたり、車椅子への移乗・移動にはヘルパーの介助が必要であり、「ストレスのない移動と移乗を行いたい」、「航空機利用時の移乗を円滑にしたい」といった声が上がった。

これらの機器は、介助者の負担軽減や利用者の安全・快適さを確保するために重要であるが、1つの機器ではカバーしきれない場合もある。より利用しやすく、手が届きやすい価格帯で提供されることが望まれる。また、障害者がより外出をしやすくする環境を作るためには、移乗や移動をする際の障壁を無くし、いかに円滑に実行できるかが重要であり、実際のニーズに応じて、個別の調整やカスタマイズができることが必要であった。

【議論の経過をイラストにしながら具体的な機器のイメージを検討した（抜粋）】



## 旅行

航空機に搭乗する際、チェックインカウンターから機内まで移動するのに、電動車いすから航空内移動用車いす、航空内移動用車いすから機内座席への移乗が必要となり、その移乗を複数の人に依頼しなければならず



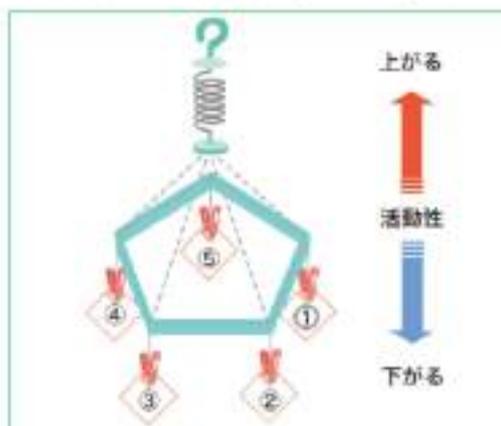
体を抱え上げることによってどこかぶつかって褥瘡を発生させる危険性があるため常に緊張した状態であることがストレスになる



ホテルに宿泊する際にベッドへの移乗が困難外泊を伴う外出をするのに躊躇している

まとめ	ニーズ	シーズ	解決イメージ
アンケート	室内:居室移乗(トイレ・シャワーキャリー) 屋外:送迎車・公衆トイレ・タクシー	昇降型の座椅子やリフトなど既存のものがある	I. 持ち運べて(コンパクト)高さを自在に選択できる昇降座椅子
A氏	ベッドから移乗・移動をシームレスに	移乗・移動の実物大開発	II. 移乗・移動のシームレス化 + シーティングの測定・評価 座位姿勢のポイントを可視化し、姿勢のゆがみやズレを測定、座位修正を容易にする
H氏	移乗を抱え上げてもらっている椅子の高さでの生活 自分で移乗して出かける	リフト(ぶらん歩)の試行	III. 自分でリフト操作、手すりを利用し、椅子・車いす・トイレ・シャワーキャリーに移乗
M氏	空港・ホテルのスムーズな移乗、危険・ストレスのない移乗 レジャーを普通に楽しむ	国内外「気軽に外かける」を日常に	IV. 空港・ホテルにリフトの設置 危険やストレスを回避する
I氏	階段の車いす送迎(持ち上げ・危険)	階段昇降機 段のサイズがまちまち、濡れているなどの条件がある	V. 段の形状などの条件をクリアできる段差解消機

## 福祉用具導入条件と活動性の関係



- ①使い方
- ②制度助成 介護保険等
- ③環境 スペース 屋外 段差
- ④経済的理由
- ⑤介助力

※それぞれが整って初めてバランスの良い生活となり、活動性が上がる

※どれか一つが整わなくてもバランスが重いものの方へ傾き、ひずんで活動性が下がる

【交流の風景】



○ATAサテライト仙台

【会 場】：ハーネル仙台

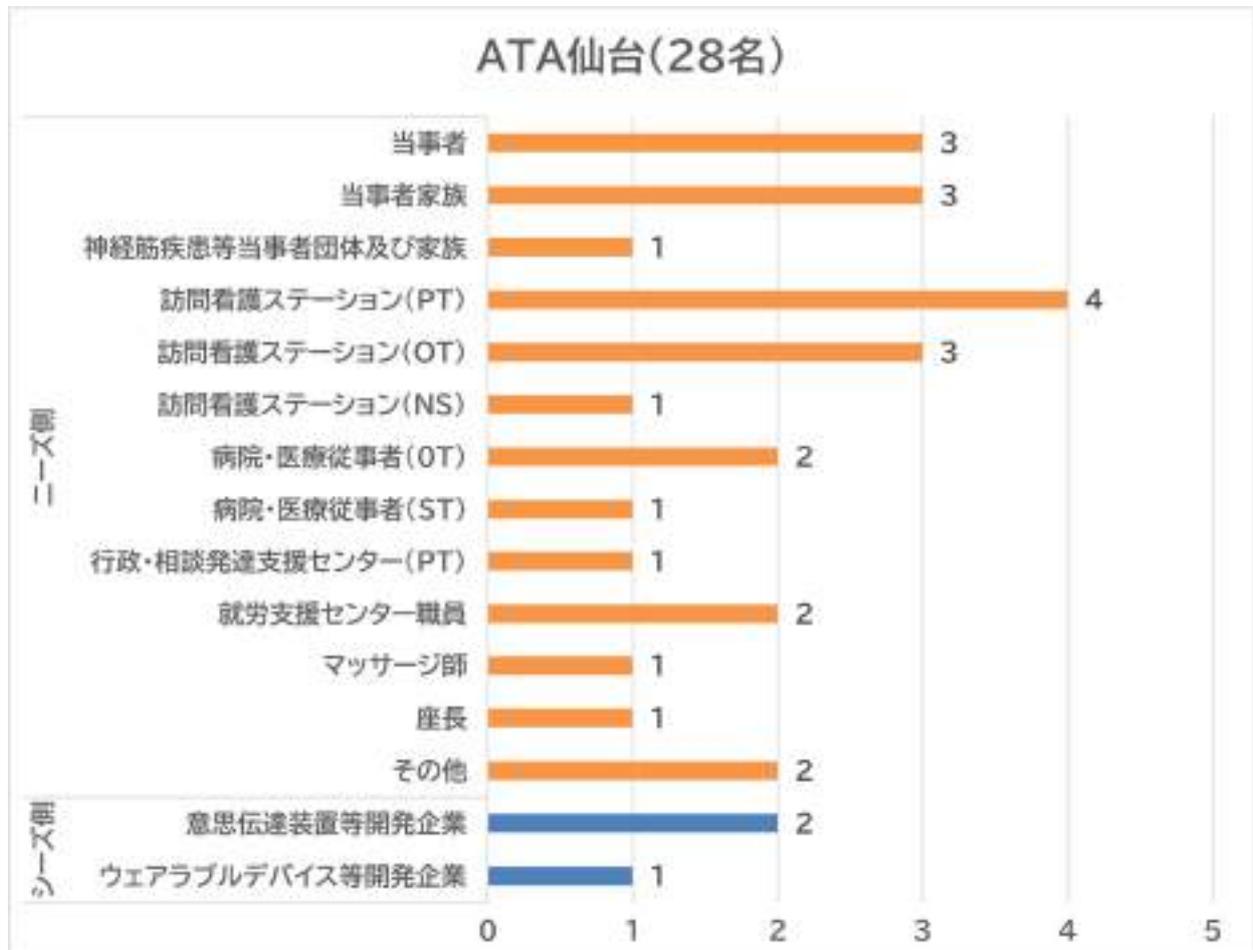
【座 長】：木島 真央 氏（株式会社メイ・ソリューション）

【副座長】：望月 謙一 氏（有限会社在宅支援チームフォーレスト）

【テーマ】：「コミュニケーション支援機器を活用した医療的ケアが必要な方（児）への生活・学習支援について考える」

【参加者】：計31名（ニーズ側：25名、シーズ側：3名、事務局他：3名）

【参加者内訳】



【主な検討内容】：

仙台会場には、障害当事者をはじめ、ご家族、訪問看護や病院に所属する医療従事者、就労支援を行う機関の関係者が参加した。在宅での支援機器導入事例が発表され、IT技術の進化や汎用機の増加が取り上げられました。しかし、機器の導入や設定を行う人材の不足や、それに伴う業務支援の必要性が浮き彫りとなった。

当事者からは、支援機器の選定や導入から実際に使いこなすまでのプロセスにおいて、専門的な助言や継続的なサポートを求める声が多く寄せられた。一方で、支援機器によって生活や社会参加が広がるなど、ポジティブな効果への評価も高く、機器の可能性が改めて確認された。今後は当事者の具体的なニーズを把握し、より使いやすく、長期的に利用可能な仕組みの構築が重要であると考えられる。

医療的ケアが必要な方々への支援機器については、ITリテラシーの格差が生活の質(QOL)に大きく影響している現状があり、IT支援を行う人材の育成や資格制度支援機器の普及を進めるためには、技術の進歩だけでなく、使用者や支援者の能力向上に向けた取り組みが不可欠であった。そのため、行政、支援者、開発企業が連携していくことの重要性が示唆された。

【議論の経過をイラストにしながら具体的な機器のイメージを検討した(抜粋)】

## 支援者側から生活の中のIoT



フォーレスト訪問看護ステーション  
IoTの導入の流れと役割

IoTは“Internet of Things”の略  
モノをインターネットにつなげることで、新しい方法を生み出す技術



家電やベッド、福祉機器などをインターネットにつなげることで、声で指示を出し、自分で家電を操作できるように！

### IoT導入の流れ



セラピストの役割は重要—その方に合わせて機器を組み合わせる

## 実際の導入事例

### カーテンの開け閉めをしたい

ベッド上で杖を使ってカーテンを開け閉め

開け閉めの時  
腕に傷ができる

ベッド周りは  
配線だらけ

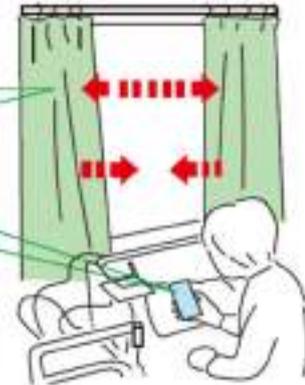


スマホで開け閉め

毎日やることは  
ラクに継続できる

危険なくカーテン  
を開閉することができる

他のことに労力を  
割ける



### フリートーク シーズ側から

今回の交流会で話された内容に解決できるものは

宇田氏

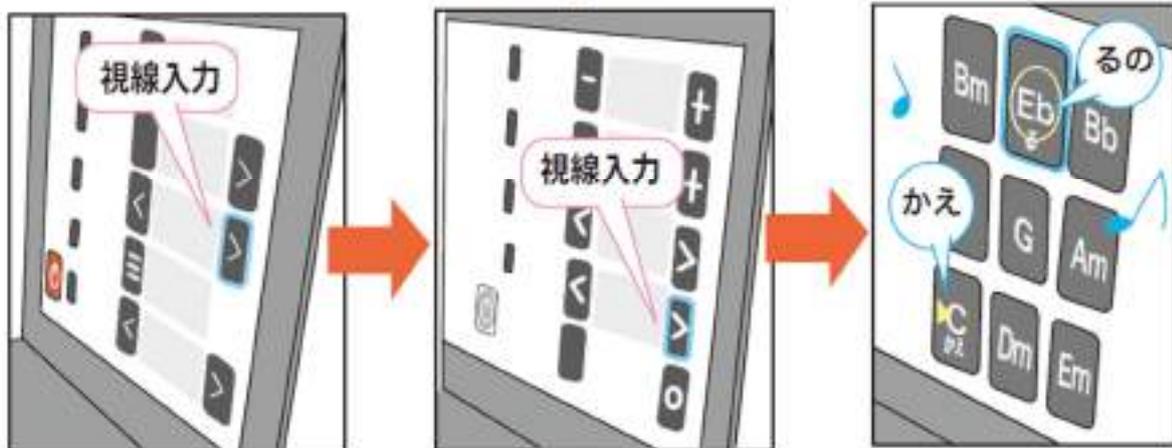
意思伝達装置のコミュニケーションにはいろいろな見方があり、一緒に何かをやっていくことが大切。視線入力によるもので、もっと興味を引くようユーザーベースを改善していきたい。

クリスマス会など皆と一緒に音楽を楽しむ内容もある。

内臓シンセサイザーボタン全てで、音が出るようになっている。

今後人気アニメ曲など利用者に合わせて選曲できたならと思いました。

### eeyes



松尾氏

コミュニケーションだけでいいというならスイッチだけでいいと思う。スイッチを練習するアプリケーションは沢山ある。練習することでできるようになる。視線入力は素晴らしいし、いいものですが、目の前にそれがなかったらできない。

視線を画面に集中するので、周りの状況が見えない、視線のサブでスイッチがあると良い



全身に強い振戦があり、意識がないと判断されたがスイッチを半年間練習し YES・NO ができるようになり、レッツ・チャットで自分の名前を打つことができ、意識があることを証明した。

オタマトーンを使ったスイッチ音楽で楽しみながら練習できるこれをやると多くの方がうまくできるようになっている。

### ③ 参加者アンケート結果

来場者を対象にアンケート調査を実施した。結果は以下のとおり。

高知 N = 16 那覇 N = 26 仙台 N = 28

○参加した日数 ※2日間にわたり開催した和歌山開催及び熊本開催のみ集計

選択肢	高知	那覇	仙台	全体
1. 1日目	4 ( 44%)	3 ( 17%)	9 ( 53%)	16 ( 36%)
2. 2日目	1 ( 11%)	2 ( 11%)	5 ( 29%)	8 ( 18%)
3. 両日	4 ( 44%)	13 ( 72%)	3 ( 18%)	20 ( 45%)
合計	9 (100%)	18 (100%)	17 (100%)	44 (100%)

○交流会をどのように知ったか

選択肢	高知	那覇	仙台	全体
1. 協会からの案内	2 ( 22%)	3 ( 17%)	2 ( 13%)	7 ( 16%)
2. 協会ホームページ	0 ( 0%)	1 ( 6%)	0 ( 0%)	1 ( 2%)
3. 座長からの案内	7 ( 78%)	13 ( 72%)	6 ( 38%)	26 ( 60%)
4. 友人・知人からの紹介	0 ( 0%)	1 ( 6%)	7 ( 44%)	8 ( 19%)
5. その他	0 ( 0%)	0 ( 0%)	1 ( 6%)	1 ( 2%)
合計	9 (100%)	18 (100%)	16 (100%)	43 (100%)

○時間配分について

選択肢	高知	那覇	仙台	全体
1. 長い	0 ( 0%)	0 ( 17%)	1 ( 7%)	1 ( 3%)
2. ちょうどよい	9 (100%)	16 ( 89%)	10 ( 67%)	30 ( 81%)
3. 短い	0 ( 0%)	2 ( 11%)	4 ( 27%)	6 ( 16%)
4. その他	0 ( 0%)	0 ( 0%)	0 ( 0%)	0 ( 0%)
合計	9 (100%)	18 (100%)	15 (100%)	37 (100%)

○今後も開催したいと思うか

選択肢	高知	那覇	仙台	全体
1. とても希望する	2 ( 22%)	7 ( 39%)	5 ( 33%)	14 ( 33%)
2. 希望する	7 ( 78%)	11 ( 61%)	9 ( 60%)	27 ( 64%)
3. どちらとも言えない	0 ( 0%)	0 ( 0%)	1 ( 7%)	1 ( 2%)
4. 希望しない	0 ( 0%)	0 ( 0%)	0 ( 0%)	0 ( 0%)
5. 全く希望しない	0 ( 0%)	0 ( 0%)	0 ( 0%)	0 ( 0%)
合計	9 (100%)	18 (100%)	15 (100%)	42 (100%)

○参加後の感想について 自由記述 ※一部のみ抜粋

- ・コミュニケーション・ロボットが様々な場で活用され当事者に喜ばれ役立っている現状を知ることができた。自身の職場でも今後どのような活用の仕方があるか考え今後の就労支援に役立てていければと考える。
- ・テーマに関する研究・実績の実例を知れたことが有意義だったと。また、異分野で活躍する参加者の話を聞いたことが貴重な体験だった。
- ・ニーズ側、シーズ側それぞれの思いを知る機会に参加でき、貴重な体験となった。制度的な部分や他の関係者とのつながりを改めて深めて行ければと思った。
- ・色々な方にも会うことが出来て良い体験になった。印象に残ったのは、イラストを使った議事録で、みんながいいアイデアと思ったのではないか。
- ・アクティブな障害者が当たり前の世界、障害者「も」楽しめる環境という視点に感銘を受けた。
- ・リハビリ職種も支援機器の知識や情報を知っておいてほしい、という言葉が非常に印象深かった。職場に帰ってから交流会の報告と共有ができたらと思った。リハ職全員（PT、OT、ST、リハ医）に伝えたいと思う。
- ・製品を組み合わせると新しい価値が作れるというイメージがより明確化され、実りのある交流が出来た。
- ・技術側が実現できることは増えているが、一方で企業として成立するには、補助がないと厳しい状況と感じた。支援者と提供側（ハード、ソフト、サービス）が一体となる取り組みを期待している。
- ・一種の異業種交流のような集まりと感じた。同じ地域に住んでいるのに、お互いに知らない人同士の交流会を与えていただきありがとうございました。
- ・日頃から皆さんが困っていること、大変なこと、実感をもって知ることが出来た。それを踏まえて自分たちができることは何かをということを考えなければと思った。メーカーと直接話すことが出来、たくさん質問できて有意義であった。

④ 成果の発信、普及、達成度について

各会場にて議論された内容の取り纏めは、座長に一任することとし、ATAの終了以降もオンラインにて座長、テクノエイド協会、イラストレーターの3者で意見交換やイラスト修正等の場を数回設け、成果発表に備えることとした。

発信・普及に関しては、東京会場にて、各3会場それぞれ実施された内容の成果発

表の場を設けた。発表に使用したスライドは、協会HPよりダウンロードを常時可能とした。また、成果発表は東京会場のみ実施したため、会場に来場できなかった方や事業が終了後も成果を視聴できるように、講演の様子をアーカイブ化した。その動画は協会HPの「動画の部屋」にて公開し、地域における機器開発の普及・促進や新たな開発の喚起につなげることを目的とした。

成果としては、厚生労働省で実施している、障害者自立支援機器等開発促進事業への応募につなげることを目標としたが、応募までには至らなかった。

### 【発表の風景】



### 【動画の部屋】

<https://www.techno-aids.or.jp/gallery/list/?cat=5>

## (6) 交流会開催後のフォローアップの成果

### ○相談窓口の設置

専任の担当者を配置し、常時ニーズ側及びシーズ側の問い合わせに応じて、相談に応じた。また、交流会会場に来場が可能であれば、会場にて関係する機器の紹介や当事者団体などを紹介した。

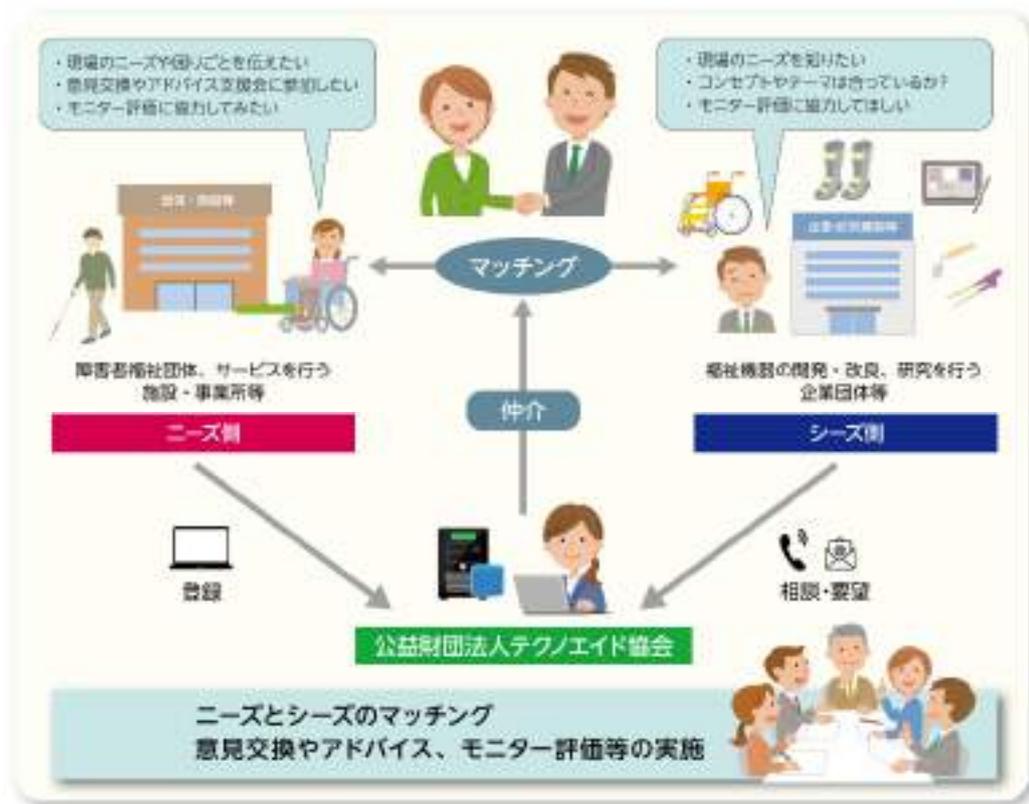
### ○モニター評価等実施にあたっての支援・協力

協会では、障害者福祉の団体（支援団体や家族会等）、サービスを行う施設・事業所、病院、リハセンター、サービスを所管する行政、その他、支援機器開発の評価等に協力いただける機関をニーズ側へ「モニター評価協力機関等」の募集を行っている。

開発企業をはじめとした、シーズ側からの要望（モニターを探している、評価を手伝ってほしい、ニーズを聞きたい等）をテクノエイド協会でお伺いし、モニター評価協力機関

等へ登録したニーズ側の団体へご案内し、協会が仲介役となりマッチングを推進する取り組みを行っている。なお、登録された機関は非公開としている。

【マッチングのイメージ】



【モニター評価協力機関等の登録画面】

The screenshot shows the website interface for the 'Welfare Staff Needs Information Collection and Provision System'. At the top, there is a navigation bar with 'Home' (ホームページ), 'About Us' (私たち), and 'Text Size' (文字サイズ) options. The main heading is '福祉用具ニーズ情報収集・提供システム'. Below this, there is a section titled '福祉用具ニーズ情報収集・提供システム' with a sub-heading '操作のガイド'. The main content area includes a description of the system and several action buttons: 'View by Graph' (グラフで見る), 'Register Email Distribution' (メール配信を登録する), and 'Recruitment of Monitor Evaluation Cooperation Organizations' (モニター評価協力機関等の募集). The 'Recruitment' button is highlighted with a red box. Below these buttons is a large orange button that says 'Submit new comments or new products (technology), and notices' (新しいコメントや新製品(技術)、お知らせを投稿する). At the bottom, there are input fields for 'Free Word' (フリーワード) and buttons for 'Wishes, Ideas, Issues' (要望・アイデア・課題) with 631 items, 'New Products, Technology' (新製品・技術) with 96 items, and 'Notices' (お知らせ) with 316 items.

○意見交換、アドバイス支援の実施

交流会の成果を着実に支援機器の開発につなげるため、出展企業等に対し、開発改良中の機器について意見交換の実施や求めるアドバイスの内容を個別に伺い、想定するユーザー及び団体等へ繋いだ。

なお、マッチングしたニーズ側2件については、モニター評価協力機関等に登録している機関であり、一連の流れの中でマッチングが成立したことを確認した。

・募集件数： 5社 実施件数： 3件

【意見交換、アドバイス支援 実施結果の概要】

No.	案件番号	機器名称	応募者情報 (ニーズ側)		意見交換、アドバイス支援先 (ニーズ側)
			企業名	障害種別	実施機関名
1	06-01	TBD 	レノボ・ジャパン合同会社	身体障害 聴覚障害	岐阜清流病院
2	06-02	寝ながらパソコン楽々モニター 	阪崎技術士事務所	身体障害 その他(肢体不自由で就業を希望する方)	岐阜清流病院 機壳市リハビリテーションセンター

○動画の部屋

動画の部屋では、交流会が終了しても、期間内に実施された講演等をアーカイブ化し、期間外でも、常時視聴できる環境を設けた。

今年度、Web開催及び東京、大阪会場で講演された22件の内容を取り纏め、動画として集約した。

【交流会サイト トップ画面】



## 【動画の部屋】

The screenshot shows the 'Video Room' (動画の部屋) section of the Techno-Aids Association website. The page features a search bar at the top right and a sidebar on the left with various navigation options. The main content area displays a grid of video thumbnails for the year 2024. Each thumbnail includes a title, a duration, and a 'NEW!!' badge. The titles of the videos are:

- NEW!! 障害者自立支援機器開発・利活用に関わる実務・障害・工学分野の人材育成モデルの開発促進に関する研究
- NEW!! 支援機器の開発・普及のためのモデル拠点構築に関する研究
- NEW!! 障害者自立支援機器開発コーディネーター育成プログラムの開発に関する研究
- NEW!! 音声認識AI[発音制御装置「ビーバート」]の紹介
- NEW!! 情報トレーニングアプリの紹介
- NEW!! 支援機器の観点からみる、知的障害のある人々への合理的配慮と障害理解について
- NEW!! 開発促進事業成果報告株式会社Ishibane
- NEW!! 開発促進事業成果報告矢野化工株式会社

## 【動画の部屋】

<https://www.techno-aids.or.jp/gallery/list/?cat=5>

### ○その他の成果

フォローアップの成果として、専門官と連携を取り、本交流会に出展している企業等において、開発促進事業の応募につながっているかを確認した。

その結果、令和7年度の応募において、**6社が開発促進事業へ応募していることがわかった。**(昨年は3社)

交流会を通じて、開発促進事業との連携を確認できた。

### (7) ニーズとシーズの情報収集発信の結果

#### ① ニーズの情報発信

交流会の企画委員でもある障害当事者団体・支援団体には、各会場へ出展いただき、ニーズの発信及び出展者の交流を積極的に行っていただくこととした。また、Web開催では一部の団体からインタビュー方式でニーズを取り纏めて頂いた動画を配信し、終了後は動画の部屋にて公開している。

## ② 福祉用具ニーズ情報収集・提供システムの活用

ニーズとシーズのマッチングを効果的に実施するため、本システム「福祉用具ニーズ情報収集・提供システム」を活用した。障害者、ご家族、介助者、開発企業より支援機器開発に係る情報の収集、発信を行った。また、交流会開催のお知らせや助成金に係る助成制度の発信もおこなっており、厚生労働省をはじめとした開発促進事業やNEDOやNICTの助成金事業募集についても投稿する場を提供した。

本システムは、平成22年より協会にて運用しているが、運用開始からのシステムのイメージを一新し、リニューアルした。

お知らせ等を含め、37件の投稿があった。

### 【福祉用具ニーズ情報収集・提供システム投稿件数】

<https://www7.techno-aids.or.jp/>

令和7年2月末	要望・課題 アイデア等	新製品 技術	お知らせ	合計
投稿件数	4件 (9件)	4件 (13件)	29件 (26件)	37件 (48件)

※()は昨年度の実績を示す

### 【投稿画面】

**福祉用具ニーズ情報収集・提供システム**

障害のある方や介護される方（家族や介護・リハビリ関係者など）から、福祉用具に関する要望やアイデア、日本の課題などをお聞きし、実用的な福祉用具の研究開発に繋がります。詳しくはこちら

**グラフで見る**

投稿されたコメントを「キーワード別」、「対象者別」、「地域別」、「郵便局別」などのグラフで見ることができます。

**メール配信を登録する**

メールの配信先を希望される方への登録した「キーワード（記事）」が投稿されるたびに、当協会からお知らせメールを配信します。

Eメール配信を停止する

**モニター評価協力機関等の募集**

国内外の福祉や実用化して役立つ福祉に対して、モニター評価やアドバイスをご協力いただける機関（施設や事業所など）は、こちらから登録してください。

新しいコメントや新製品（技術）、お知らせを投稿する

フリーワード

検索

キーワード検索

検索

出品 **0-1歳フェック**

- 食べる 71
- 寝る 92
- ペッドからの立ち上がり 65
- 移動 77

要望・アイデア・課題  
631件

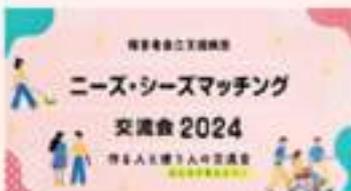
新製品・技術  
98件

お知らせ  
317件

お知らせ

**ニーズ・シーズマッチング交流会2024 紹介動画がUPされました！**

キーワード：福祉全般に関するお知らせ 福祉用具全般に関するお知らせ 関連事業企画に関するお知らせ  
 NEW! 投稿：テクノエイド協会 (2025-03-17 11:33:15 / No.1112 / 東京都)



**ニーズ・シーズマッチング  
交流会 2024**

障害者も生き生きと交流

11月、12月に開催されたニーズ・シーズマッチング交流会2024の様子をまとめた動画を公開しました。参加者の交流の様子、講演、アクティビティのハイライトをご覧ください。ぜひご覧ください！

<https://youtu.be/9i8MRYUPT1c>

(8) 開催結果及びアンケート結果

① Web開催の結果

(令和7年1月31日時点の集計結果)

公開期間（4か月）アクセス数	令和6年10月 1日（火）～ 令和7年 1月31日（水）
Web交流プラットフォーム	12,323回

出展者個別ページ （全102社・団体）	閲覧回数
総アクセス数	3,473回
平均	34回
中央値	28回
最高	132回
最低	6回

問い合わせフォーム	回数
総数	10件
内訳	
機器について質問したい	4件
資料が欲しい	2件
詳細な説明が聞きたい	1件
その他	3件

※「その他」の内容には、出展者同士又は企業と出展者の協業依頼などがあつた。

② 会場開催（大阪、東京）の結果

交流会専用サイトにて事前登録の実施を推奨とし、事前登録会場では、名刺や受付票に記載してご来場いただくこととした。

○来場者数と内訳

	来場者(使う人・作る人)	出展者	合計
大阪会場	274(346)	132(174)	406(520)
東京会場	570(396)	271(271)	841(667)
合計	844名(742)	403名(445)	1247名(1187)

○来場者の使う人、作る人の内訳

	来場者 使う人	来場者 作る人	合計
大阪会場	187(201)	87(145)	274(346)
東京会場	260(184)	310(212)	570(396)
合計	447名(385)	397名(357)	844名(742)

○出展者の使う人、作る人の内訳

	出展者 使う人	出展者 作る人	合計
大阪会場	31 (36)	101 (138)	132 (174)
東京会場	38 (38)	233 (233)	271 (271)
合計	69名 (74)	397名 (371)	403名 (445)

③ 会場開催（大阪、東京）のアンケート結果

a. 来場者アンケート調査結果 【会場別】

アンケートの回答件数と回収率 大阪会場N=274、東京会場N=570

会場	回答件数	回収率
大阪会場	49件	17.9%
東京会場	73件	12.8%
合計	122件	

○基本情報

選択肢	大阪	東京	全体
一般企業（今後、支援機器の開発を目指す企業を含む）	13 (26.5%)	14 (19.2%)	27 (22.1%)
障害者家族	3 (6.1%)	5 (6.8%)	8 (6.6%)
障害者	4 (8.2%)	7 (9.6%)	11 (9.0%)
研究機関・団体	3 (6.1%)	9 (12.3%)	12 (9.8%)
学校・教育関係者	3 (6.1%)	17 (23.3%)	20 (16.4%)
医療関係者	4 (8.2%)	4 (5.5%)	8 (6.6%)
施設関係者	5 (10.2%)	3 (4.1%)	8 (6.6%)
支援機器開発企業	2 (4.1%)	0 (0.0%)	2 (1.6%)
行政	1 (2.0%)	7 (9.6%)	8 (6.6%)
その他	10 (20.4%)	6 (8.2%)	16 (13.1%)
無回答	1 (2.0%)	1 (1.4%)	2 (1.6%)
合計	49 (100%)	73 (100%)	122 (100%)

○参加日数

No.	選択肢	全体
1	1日のみ	110 (90.2%)
2	2日間	5 (4.1%)
3	3日間	7 (5.7%)
	合計	122 (100%)

○開催の情報収集元について（複数回答） 大阪N=49 東京N=73 全体N=122

選択肢	大阪	東京	全体
協会からの郵送物／メール	21 (42.9%)	23 (31.5%)	44 (36.1%)
協会のホームページ	11 (22.4%)	9 (12.3%)	20 (16.4%)
協会SNS (Xなど)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
バリアフリー展事務局からの案内	7 (14.3%)	0 (0.0%)	7 (5.7%)
所属する障害団体からの案内	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
経済振興団体からの案内	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
所属する職能団体からの案内	3 (6.1%)	4 (5.5%)	7 (5.7%)

自治体からの案内・広報誌など	0 ( 0.0%)	1 ( 1.4%)	1 ( 0.8%)
友人・知人からの紹介	10 (20.4%)	15 (20.5%)	25 (20.5%)
新聞・プレスリリースなどのネット記事	2 ( 4.1%)	4 ( 5.5%)	6 ( 4.9%)
その他	5 (10.2%)	21 (28.8%)	26 (21.3%)

※その他には、「メール」、「インターネット」、「バリアフリー展より」、「職場の案内」等。

○交流会来場の目的について（複数回答） 大阪N=49 東京N=73 全体N=122

選択肢	大阪	東京	全体
機器の閲覧や体験をしながら意見交換を行いたかった	24 (49.0%)	48 (65.8%)	72 (59.0%)
普段困っていることについて相談したかった	4 ( 8.2%)	6 ( 8.2%)	10 ( 8.2%)
特定の企業または団体に対して直接伝えたいことがあった	5 (10.2%)	2 ( 2.7%)	7 ( 5.7%)
具体的に作って欲しい要望やアイデアがあり、企業に伝えたいことがあった	5 (10.2%)	1 ( 1.4%)	6 ( 4.9%)
その他	16 (32.7%)	20 (27.4%)	36 (29.5%)
無回答	2 ( 4.1%)	3 ( 4.1%)	5 ( 4.1%)

※その他には、「校外学習のため」「情報収集」、「開発の参考のため」、「ニーズ調査」等。

○交流会の満足度について

選択肢	大阪	東京	全体
大変満足している	14 (28.6%)	36 (49.3%)	50 (41.0%)
ある程度満足している	24 (49.0%)	35 (47.9%)	59 (48.4%)
どちらとも言えない	4 ( 8.2%)	1 ( 1.4%)	5 ( 4.1%)
あまり満足していない	1 ( 2.0%)	0 ( 0.0%)	1 ( 0.8%)
全く満足していない	0 ( 0.0%)	0 ( 0.0%)	0 ( 0.0%)
無回答	6 (12.2%)	1 ( 1.4%)	7 ( 5.7%)
合計	49 ( 100%)	73 ( 100%)	122 ( 100%)

○来年も参加したいと思うか

選択肢	大阪	東京	全体
ぜひ参加したい	19 (38.8%)	33 (45.2%)	52 (42.6%)
参加したい	15 (30.6%)	29 (39.7%)	44 (36.1%)
どちらともいえない	9 (18.4%)	8 (11.0%)	17 (13.9%)
参加したくない	0 ( 0.0%)	0 ( 0.0%)	0 ( 0.0%)
全く参加したくない	0 ( 0.0%)	1 ( 1.4%)	1 ( 0.8%)
無回答	6 (12.2%)	2 ( 2.7%)	8 ( 6.6%)
合計	49 ( 100%)	73 ( 100%)	122 ( 100%)

## b. 来場者アンケート調査結果 自由記述

○来場者アンケート『どのような交流ができたか』（自由記述） ※一部のみ抜粋

### 【大阪会場】

- 新しい機器などを知れた、困っていることを相談できた。
- 実物を見ることが出来た、自分に使いやすいか？なども確認でき、出展者にも当事者の立場から意見交換できた。
- 相談業務に役に立つ情報を得られた。
- いろいろな団体と交流ができた。
- 新しい情報が得られた。
- 商談ができた。

### 【東京会場】

- 数社と製品開発、製作につながりそうな明るい意見交換ができた。
- 普段不便とは思いつつもあきらめていたが、いろいろな機器や道具があることを知れた。
- これまでの自分の考えやイメージが変わる内容のものばかりでした。使う側と作る側の双方の視点から交流できた貴重な機会でした。
- これから家族ができなくなっていくことへのサポートが充実していて、出来なくなることへの悲しみや不安の気持ちが減った。意思疎通について多く学んだ。

## c. 出展者アンケート調査結果 【会場別】 一部抜粋

○アンケートの回答件数

会場	回答件数
大阪会場	54件
東京会場	84件
合計	138件

一部を除き、出展者にはアンケートの提出を必須とした。

○過去の交流会について、その後の機器開発や団体の活動において有意義な交流ができたか（今回は初めて参加した出展者は除く）

選択肢	大阪	東京	全体
大変参考になった	21 (50.0%)	43 (64.2%)	64 (58.7%)
ある程度参考になった	19 (45.2%)	22 (32.8%)	41 (37.6%)
どちらともいえない	2 (4.8%)	2 (3.0%)	4 (3.7%)
あまり参考にならなかった	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
参考にならなかった	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
合計	42 (100%)	67 (100%)	109 (100%)

○国や研究開発法人等の開発補助事業に応募してみたいと思ったか

選択肢	大阪	東京	全体
是非、応募したい(応募を検討したい)	12 (22.2%)	24 (28.6%)	36 (26.1%)
応募してみたい(応募を検討してみたい)	20 (37.0%)	28 (33.3%)	48 (34.8%)
どちらともいえない	17 (31.5%)	29 (34.5%)	46 (33.3%)
補助事業に関心はない	5 (9.3%)	3 (3.6%)	8 (5.8%)
合計	54 (100%)	84 (100%)	138 (100%)

○交流を行った概ねの人数

大阪N=54 東京N=84 全体N=138

選択肢	大阪	東京	全体
20人未満	9 (16.7%)	13 (15.5%)	22 (15.9%)
20人～50人未満	31 (57.4%)	31 (36.9%)	62 (44.9%)
50人～100人未満	11 (20.4%)	30 (35.7%)	41 (29.7%)
100人以上	3 (5.6%)	10 (11.9%)	13 (9.4%)
合計	54 (100%)	84 (100%)	138 (100%)

○交流の具体的な内容(複数回答)

大阪N=54 東京N=84 全体N=138

選択肢	大阪	東京	全体
機器に対する要望や改善点が聞けた	30 (55.6%)	55 (65.5%)	85 (61.6%)
日常の困りごとやニーズに関する話がきけた	39 (72.2%)	61 (72.6%)	100 (72.5%)
今後の具体的な開発協力や連携に関して話が聞けた	21 (38.9%)	45 (53.6%)	66 (47.8%)
自社や自団体の活動や取り組みについて理解が深められた	24 (44.4%)	52 (61.9%)	74 (53.6%)
その他	4 (7.4%)	4 (4.8%)	8 (5.8%)

○交流会の満足度

選択肢	大阪	東京	全体
大変満足している	24 (44.4%)	48 (57.1%)	72 (51.8%)
ある程度満足している	26 (48.1%)	35 (41.7%)	61 (43.9%)
どちらとも言えない	2 (3.7%)	1 (1.2%)	3 (2.2%)
あまり満足していない	2 (3.7%)	0 (0.0%)	2 (1.4%)
全く満足していない	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
合計	54 (100%)	84 (100%)	138 (100%)

○来年の出展について

選択肢	大阪	東京	全体
是非出展したい	32 (59.3%)	56 (66.7%)	88 (63.8%)
出展したい	15 (27.8%)	22 (26.2%)	37 (26.8%)
どちらとも言えない	5 (9.3%)	6 (7.1%)	11 (8.0%)
出展したくない	2 (3.7%)	0 (0.0%)	2 (1.4%)
全く出展したくない	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
合計	54 (100%)	84 (100%)	138 (100%)

○交流会の参加方法について

選択肢	大阪	東京	全体
会場参加	22 (40.7%)	24 (28.6%)	46 (33.3%)
Webのみ参加	1 (1.9%)	1 (1.2%)	2 (1.4%)
会場及びWebに参加	31 (57.4%)	58 (69.0%)	89 (64.5%)
その他の参加方法	0 (0.0%)	1 (1.2%)	1 (0.7%)
合計	54 (100%)	84 (100%)	138 (100%)

○東京・大阪以外の開催希望について

選択肢	大阪	東京	全体
希望する	23 (42.6%)	31 (36.9%)	54 (39.1%)
どちらでもない	20 (37.0%)	32 (38.1%)	52 (37.7%)
希望しない	11 (20.4%)	21 (25.0%)	32 (23.2%)
合計	54 (100%)	84 (100%)	138 (100%)

○開催を希望する地域（複数回答）

大阪N=54 東京N=84 全体N=138

選択肢	大阪	東京	全体
北海道・東北	17 (31.5%)	21 (25.0%)	38 (27.5%)
関東	2 (3.7%)	6 (7.1%)	8 (5.8%)
北陸信越	6 (11.1%)	6 (7.1%)	12 (8.7%)
中部	13 (24.1%)	10 (11.9%)	23 (16.7%)
近畿	4 (7.4%)	3 (3.6%)	7 (5.1%)
中国	9 (16.7%)	8 (9.5%)	17 (12.3%)
四国	8 (14.8%)	8 (9.5%)	16 (11.6%)
九州・沖縄	19 (35.2%)	26 (31.0%)	45 (32.6%)

c. 出展者アンケート調査結果 【会場別】 一部抜粋

○出展者アンケート『交流の具体的な内容や成果について』（自由記述） ※一部抜粋

【大阪会場】

- 試作品に対してのご意見を伺って、早速仕様変更でき、ブラッシュアップができた。
- 「具体的に打ち合わせをしよう」という件や、近くに困っている人がいるので伝えてみる。などのお話をいただいた。
- 弊社のクッションを見て頂き、正面のブースの方から紹介したい人がいるので、製品を販売してほしいとの依頼があった。又、隣のブースの方とも話が出来、取引させて頂く運びとなった。
- 製品の存在を知って頂けた。また具体的な導入に向けたデモの依頼を検討して頂く事ができた。
- 利用者ニーズが直接聞けた、さまざまな人と話をすることで、開発すべき方向性を整理できた。
- 弊社機器の販売代理を行いたいという事業者から複数アクセスがあった。他社から共同営業・開発アライアンスについて打診があった。
- 障害団体で体験会について打診していただけることになった。

## 【東京会場】

- 後日、改めて意見交換する場を設けることを約束できた企業、大学、団体等が複数ありました。
- これまでの他の展示会に比べ、当てはまる障害の方（難聴）が多く必要な方からの貴重なご意見を伺うことが出来ました。
- 大阪会場では得られなかった衣類に関するご意見やご要望等を聞くことが出来ました。
- 他社様と、共同開発の可能性について協議することができた。弊社の製品が日常生活用具として認定される可能性について、行政担当者と協議できた。
- 開発機のモニター希望者と出会うことが出来た。
- 出展機器に対する協業の相談相手が見つかった。新たな活動テーマを見つけることができた。
- 当団体について理解を深めていただくことができた。その上で、今後製品のモニター協力をしていく方向で話ができ、昨年交流のあった企業の方から他の企業をご紹介いただいた。

## E. 考察及び結論

### (1) 成果等について

大阪および東京で、各3日間の会場開催と、4か月間のWeb開催を実施した。

Web開催では、プラットフォームのアクセス数は12,323回（昨年度13,950回）となり、昨年度よりも若干減少した。また、Web上では各出展者のページに「問い合わせフォーム」を設け、期間中に10件の問い合わせがあった。数は少ないものの、内訳を見るとニーズとシーズのマッチングにとどまらず、シーズ同士のマッチングにも利用されていることがわかった。

併催イベント（講演）において、開発支援機関として総務省が今年度初めて参入し、各助成事業について発表を頂きました。講演は、演者の了承を得た上で録画を行い、「動画の部屋」にて公開し、これにより交流会終了後も継続して視聴できるよう、アーカイブ化しております。開発助成の動画を含め、20件の動画を掲載した。

出展者を含めた来場者数は、大阪405名（昨年度520名）東京会場で841名（昨年度667名）であった。大阪会場は、天候が悪く、気温も低い日が続いたため、障害当事者の来場が少なかった。一方、東京会場は昨年よりも来場者数を伸ばした。その要因として、保育や作業療法士の専門学校や大学からの来場があり、授業の一環として引率の先生をはじめ、学生が来場したことが大きな要因と言える。

地域交流会（ATAサテライト）は、3会場（仙台、高知、那覇）で実施した。開催地によって参加者は様々であるが、テーマに沿って議論が行われた。

フォローアップとして、当協会では交流会期間のみに捉われず、ニーズ側、シーズ側の問い合わせに対応しているところであるが、協会独自で実施している、「意見交換、アドバイス支援」に関して、3件のマッチングが成立し、機器の貸し出し、専門職によるモニター評価などが継続して実施された。また、交流会に出展している企業等において、開発促進事業への応募につながっているかを確認したところ、令和7年度においては、6社が開発促進事業へ応募していることがわかった。（昨年は3社）交流会を通じて、開発促進事業へつながることを確認した。

来場者のアンケートでは、交流会の開催を知ったきっかけは「協会からの郵送物／メール」次いで「友人・知人からの紹介」が多い結果であった。満足度に関しては、両会場で約90%が満足しているとの結果であった。

出展者のアンケートでは、出展者の40%以上が20名～50名ほどの交流ができ、100人以上交流できたのは9%ほどだった。満足度に関しては、両会場で約95%が満足しているとの結果であった。自由記述では「モニター希望者と出会うことが出来た」、「ご意見を伺ってブラッシュアップにつながった」、「意見交換の場を設けることを約束できた企業、大学、団体等が複数あった」、「製品が日常生活用具として認定される可能性について、行政担当者と協議できた」など、来場者とのマッチングが確認できた。また、交流会を希望する開催地に関しては、「九州・沖縄」が30%越え、「北海道・東北」が20%越えとなった。

SNS及びプレスリリースについて、今年度より交流会の周知を強化した。来場者アンケートの結果から、「プレスリリース等のネット記事」を見て来場された人も少なからずいることが確認された。

### (2) 考察、結論（今後の課題と解決策について）

出展者および来場者を対象とした満足度アンケートでは、90%が満足と回答した。一方で、来場者数は大阪会場では減少し、東京会場では増加したものの、交流会の認知度は依然として低く、全体の来場者数の伸び悩みが課題となっている。今後は、既存の来場者に加え、

福祉・工学系の大学や高専の学生、病院関係の医療従事者、各種学会の会員にも周知を行い、集客の拡大を図る。

今年度は、交流会の認知度向上と開催告知のため、プレスリリースやSNSを活用して周知した。プレスリリースは一般企業のみならず、行政や公的機関などにも利用されており、交流会の広報手段として有効である。また、3社のエージェンシーを活用し、リリース時期や投稿回数を検討した結果、今後は費用対効果を考慮したスケジュールで継続的に実施したい。

出展者を対象とした開催希望地に関するアンケートでは、『九州・沖縄』を希望する声が30%以上、『北海道・東北』を希望する声が20%以上に達した。この結果を踏まえ、東京や大阪以外での開催も検討する価値はある。ただし、集客や会場予約、予算などの課題があるため、地域の関係者との連携を強化しながら、慎重に開催地を選定していきたい。

地域交流会（ATAサテライト）において、地域のニーズ側及びシーズ側が参集し、議論を重ねているところである。地域での課題解決につながる支援機器のイメージはもちろんのこと、仙台開催では、支援機器を使用する知見のある人材やサービス、人員体制の整備が必要ではないかという議論もあった。支援機器開発と共に支援機器が普及するための地域の取り組みや体制整備などについても今後併せて考えていくことが示唆された。

交流会会場では、マッチングコーディネーターが常駐しており、ニーズ側・シーズ側の仲介役となりニーズとシーズのマッチングやシーズ同士のマッチングを推進している。しかし、来場者の中には現在抱えている課題やニーズを解消したいが相談先が分からず、コーディネーターに相談されるケースもあるという。解決策としては、例えば、会場内に「支援機器に関わる相談窓口」等を設置し、担当者を配置することで、来場者の相談先を明確にし、必要に応じてシーズ側を紹介するなど、ニーズとシーズをマッチングするきっかけを提供できるのではないかと考えられる。

## その他、参考資料 ※データが重いため掲載予定の項目のみ記載

### A.併催イベント講演資料(1ページにつき4枚スライド、モノクロ印刷を予定)

	プログラム	内容	発表等
1	開会挨拶	本交流会の目的、Web及び会場開催のご案内	公益財団法人テクノエイド協会 企画部
2	行政の取り組み	障害者自立支援機器等開発促進事業の実施について	厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部 企画課 自立支援振興室
3		高齢者・障害者の利便の増進に資するデジタル・ディバイド解消に向けた技術等研究開発(補助金)について	総務省 情報流通振興課 情報活用支援室
4		福祉用具の研究開発の推進 SBIR推進プログラムの実施について	NEDO
5		情報バリアフリー環境の実現を目指して	NICT
6	基調講演	支援機器の観点からみる、知的障害のある人たちへの合理的配慮と環境整備について	一般社団法人スローコミュニケーション
7	開発動向最前線	読話トレーニングアプリの紹介	神奈川工科大学
8		音声認識AI環境制御装置「ビーハンド」の紹介	リフォームレシピ
9	調査事業の報告	令和5年度障害者総合福祉推進事業 新たな支援機器開発領域の開拓及び活性化のための実態調査の報告	株式会社日本総合研究所
10		障害者等のICT機器利用支援事業の報告	株式会社エヌ・ティ・ティ・データ経営研究所
11	特別講演	インクルーシブデザインで「誰もが使いやすい」のその先へ	PLAYWORKS株式会社
12	地域交流会の成果	ATAサテライト那覇 成果報告	社会福祉法人 おもと会
13		ATAサテライト高知 成果報告	特定非営利活動法人 結人の紬
14		ATAサテライト仙台 成果報告	メイ・ソリューション株式会社

### B.交流会関係資料

	内容
1	交流会公式パンフレット
2	交流会チラシ
3	ATAサテライト高知、那覇、仙台の開催チラシ
4	出展要項(2024版)
5	出展者アンケート